

令和7年第4回御宿町議会定例会

議 事 日 程 （第1号）

令和7年12月9日（火曜日）午前9時30分開会

日程第 1 会議録署名人の指名について

日程第 2 会期の決定について

日程第 3 諸般の報告について

日程第 4 常任委員会視察報告について

日程第 5 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（10名）

1 番 藤 井 利 一 君

2 番 岩 瀬 環 樹 君

3 番 塩 入 健 次 君

4 番 滝 口 一 浩 君

5 番 土 井 茂 夫 君

6 番 北 村 昭 彦 君

7 番 伊 藤 城 祐 君

8 番 石 井 芳 清 君

9 番 椎 木 藤 弘 君

10 番 田 中 とよ子 君

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町 長 原 宏 君

副 町 長 田 邊 義 博 君

教 育 長 海老根 秀 昭 君

総 務 課 長 吉 野 信 次 君

企画財政課長 金 井 亜紀子 君

産業観光課長 米 本 貴 志 君

税務住民課長 上 野 千 晶 君

建設環境課長 伊 藤 広 幸 君

保健福祉課長 吉 田 和 幸 君

教 育 課 長 市 東 秀 一 君

会 計 室 長 石 井 学 君

事務局職員出席者

事 務 局 長 吉 野 和 久 君 主 任 主 事 長 谷 真 子 君

◎開会の宣告

○議長（滝口一浩君） 皆さん、おはようございます。

本日、令和7年第4回定例会が招集されました。

本日の出席議員は10名です。

よって、定足数に達しておりますので、本日の会議は成立いたしました。

これより令和7年12月招集御宿町議会第4回定例会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

本定例会においてもインターネットにおいて議会中継を放送いたします。インターネット中継に際して、個人情報の取扱いにご配慮いただければと思います。

また、議会だより編集のため、場内の写真撮影を許可いたしました。

監査委員から例月出納検査の結果報告がありました。お手元に配付の資料によりご了承願います。

傍聴人に申し上げます。

傍聴にあたっては、傍聴規則に従い、静粛をお願いいたします。また、携帯電話の類いは使用できませんので、電源をお切りください。

議事に入る前に、町長より発言が求められておりますので、これを許可いたします。

原町長。

○町長（原 宏君） 町民の皆様へお知らせいたします。

令和7年12月8日23時15分頃、青森県東方沖を震源とするモーメントマグニチュード7.4の地震が発生しました。この地震の発生により、北海道の根室沖から東北地方の三陸沖にかけての巨大地震の想定震源域では、新たな大規模地震の発生する可能性が平常時と比べて相対的に高まっていると考えられることから、内閣府、気象庁より北海道・三陸沖後発地震注意報が発表されました。

御宿町は、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域に指定されています。この内容は、町ホームページにも掲載しておりますので、よくご確認いただくとともに、日頃からの地震への備えを心がけ、もし地震が発生した場合は、すぐに避難していただくようお願いいたします。

以上でございます。

（午前 9時30分）

◎会議録署名人の指名について

○議長（滝口一浩君） これより日程に入ります。

日程第1、会議録署名人の指名についてを議題といたします。

会議録署名人は、会議規則第126条の規定により議長より指名いたします。2番、岩瀬環樹君、3番、塩入健次君にお願いいたします。

◎会期の決定について

○議長（滝口一浩君） 日程第2、会期の決定についてを議題といたします。

今定例会の会期は、あらかじめ配付した日程により本日から2日間とし、本日は、諸般の報告、常任委員会視察報告の後、7名の一般質問を行い、散会いたします。

明日10日は、議案第1号から第5号及び請願第5号を上程の上、質疑、採決を行い、閉会いたします。

お諮りいたします。

ただいま申し上げたとおり決定することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（滝口一浩君） 異議なしと認めます。

よって、今定例会の会期は、本日から10日までの2日間とすることに決定しました。

◎諸般の報告について

○議長（滝口一浩君） 日程第3、諸般の報告について。

議長の諸般の報告については、あらかじめ配付した報告書のとおりですので、ご確認ください。あわせて、山梨県小菅村行政視察報告書を配付させていただきました。また、総務教育民生委員会委員長より、先に行われた学校訪問等の報告について提出がありましたので配付させていただきましたので、ご確認ください。

続きまして、原町長から議案の提案理由の説明並びに諸般の報告について発言を求められておりますので、これを許可いたします。

原町長。

（町長 原 宏君 登壇）

○町長（原 宏君） 本日、ここに令和7年第4回定例会を招集いたしましたところ、議員

の皆様方におかれましては、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

今定例会に提案いたします案件は、規約改正に関する協議 1 件、条例案 2 件、補正予算案 2 件の計 5 件についてご審議をいただきますが、開会に先立ちまして、各議案の提案理由及び諸般の報告について申し上げます。

まず、今定例会でご提案いたします議案の概要について説明申し上げます。

議案第 1 号 千葉縣市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少、千葉縣市町村総合事務組合の共同処理する事務の一部廃止及び千葉縣市町村総合事務組合規約の変更に関する協議についてですが、本案は、令和 8 年 3 月 31 日をもって、千葉縣市町村総合事務組合を組織する地方公共団体である三芳水道企業団、九十九里地域水道企業団及び南房総広域水道企業団が解散することにより、組合を組織する地方公共団体の数が減少すること。また、組合の共同処理する職員採用試験の合同実施に関する事務を廃止することにより組合規約に変更が生じるため、地方自治法第 290 条の規定により議会の議決を求めるものでございます。

議案第 2 号 御宿町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定についてですが、本案は、子ども・子育て支援法の一部を改正する法律により、生後 6 か月から満 3 歳未満で保育所などに通っていない子供を育てている家庭が、就労要件を問わず時間単位で柔軟に利用できる新たな通園制度が創設され、令和 8 年 4 月 1 日からは全自治体において実施することとなることにより、児童福祉法第 34 条の 16 第 1 項の規定に基づき、乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定めようとするものでございます。

議案第 3 号 御宿町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例の制定についてですが、本案は児童福祉法の一部を改正する法律の施行により、保育所等の職員による虐待に関する通報義務等を創設する等の改正が行われたことに伴い、児童福祉施設の整備及び運営に関する基準等の内閣府令により改正が行われ、令和 7 年 10 月 1 日から施行されたことにより、関係する条例の一部を改正するものでございます。

主な改正内容は、児童福祉法第 33 条の 10 に新たに第 2 項及び第 3 項が設けられたため、条例で同条を引用している条項を改めるとともに、その他所要の改正を行うものでございます。

議案第 4 号 令和 7 年度御宿町介護保険特別会計補正予算（案）（第 2 号）についてですが、今回お願いいたします補正予算は、歳入歳出ともに 188 万 1,000 円を追加し、補正後の予算総額を 10 億 5,020 万 9,000 円とするものでございます。

本補正予算の内容は、令和 7 年度税制改正による介護保険法施行令改正に伴うシステム改修

となります。補正財源につきましては、国庫補助金と一般会計からの繰入金を充てております。

議案第5号 令和7年度御宿町一般会計補正予算（案）（第3号）についてですが、今回お願いいたします補正予算は、歳入歳出ともに1億1,085万5,000円を追加し、補正後の予算総額を46億8,998万5,000円とするものでございます。

本補正予算の内容は、火葬場の解体工事に関わる費用のほか、昨年の定例会にてお願いいただきました中学校の屋内運動場及び武道館にエアコンを設置するための設計委託、全国瞬時警報システムの更新、海岸街路灯のLED化改修、老朽化に伴う公共施設等の修繕、令和6年度の国庫支出金の精算に伴う返還金の計上など、速やかな事業実施に対応するための予算措置をお願いするものでございます。

ただいま申し上げました議案の詳細につきましては担当課長からご説明申し上げますので、何とぞ慎重なるご審議をいただき、ご議決を賜りますようお願い申し上げます。

続きまして、諸般の報告ですが、私の公務の日程の報告につきましては、配付させていただきましたお手元の資料のとおりでございます。

それでは、諸般の報告をさせていただきます。

9月22日、100歳祝い対象者の方のうち、町内に居住されている方へお祝い状と銀杯等を届けに伺い、元気な様子を伺うことができました。

27日、La Festa Autunno 2025で来町した約50台のクラシックカーを歓迎いたしました。

30日に、山梨県小菅村へ行政視察に行つてまいりました。私、副町長、各課長、議員の皆様、総勢18名、小菅村で行っている事業、その進め方、考え方について学んでまいりました。

10月5日、伊勢えび祭りビッグイベントを開催いたしました。

6日に御宿駅西側遊休農地等環境整備事業推進検討会、9日にスペイン建国記念日のレセプションに出席いたしました。

15日に、アカプルコ市の日本ともだちの会より5名が来町され、町内を散策後歓談いたしました。

21日に、千葉県知事の視察及び御宿町の課題について意見交換会がございました。

26日には、町内外から多数の皆様にご臨席を賜り、御宿町合併70周年記念式典を挙行いたしました。

11月1日から3日にかけて御宿町文化祭を開催しました。

7日に、御宿町七つ子祝いが行われ、これからの御宿町を担っていく24名に記念品を渡し、お祝いをいたしました。

18日に、千葉県夷隅地域2市2町首長会議、令和7年度御宿町中学生議会第1回定例会に出席いたしました。

12月4日に、御宿ビーチタウン協議会が発足いたしました。本組織は、町が抱える課題、活性化に向けた事業の検討にあたり、皆様からお知恵をいただきながら課題の整理や進め方を検討するシンクタンクとしての役割を担うものでございます。

また、去る6月にスペイン国上院議員友好グループの皆様が来町されましたが、それをきっかけに、スペイン上院より御宿町民への感謝の意が込められたプレートが贈られることになりました。12月17日に、駐日スペイン大使が来町し、プレート贈呈式を執り行います。

以上、諸般の報告といたします。

○議長（滝口一浩君） 以上で諸般の報告を終わります。

◎常任委員会視察報告について

○議長（滝口一浩君） 日程第4、常任委員会視察報告について、藤井産業建設委員会委員長から発言を求められておりますので、これを許可します。登壇の上、発言願います。

1番、藤井利一君。

（1番 藤井利一君 登壇）

○1番（藤井利一君） 1番、藤井です。

過日、常任委員会視察がございましたので、報告をさせていただきます。

産業建設委員会、総務教育民生委員会の合同の行政視察でございます。

本年は、産業建設委員会の主催により、令和7年10月8日から9日にかけて、大阪・関西万博及び淡路島を視察訪問いたしました。

まず、大阪・関西万博スペイン館の視察訪問についてですが、当町と交流のあるスペイン国が大阪・関西万博にパビリオンを出展しており、館内には当町との国際交流の原点であるサン・フランシスコ号遭難・救助に係る史実が紹介されているということや、6月にスペイン国より万博視察のために来日中のスペイン国上院議員友好グループが史実の地、御宿町を訪問していただいたこともあり、今回常任委員会における視察先といたしました。

スペイン館に着きますと、谷口館長やスタッフが歓迎してくれまして、館長が展示物などの案内をしてくださいました。館内に入り、館長の最初の説明と併せて、すぐに目に入ったのは、岩和田沖で座礁、沈没したガレオン船の模型、そして当時の遭難、乗組員の救助の様子を描いたイラストでした。そのことから、日本とスペインの国際交流の起点である御宿町との史実

を非常に大切にされ、継承するという国際交流発展を望む強い気持ちを感じました。

また、先に進むにつれ、内部は青い海の世界が広がり、深海へ入り込むような構造で、上部へは命を養う海洋、食物をもたらす海洋、酸素を生み出す海洋と、気泡のように海のメッセージが浮かび、風力発電のホログラム、海の文化遺産など、海洋資源、自然を大切にされていることを感じました。

両国、そして当町との歴史的なつながりの再確認と、今後の国際交流を考えていく上で有意義な視察訪問となりました。

次に、淡路島の視察研修についてですが、淡路島では西海岸部の民間企業などにおける開発、北淡震災記念公園などの6か所を視察を行いました。

淡路島は、西海岸部において民間企業の参入による地域活性施策、産業創出、観光振興などが先進であることから、当町の今後の施策への活用可能性を検討することを目的に、視察訪問先といたしました。西海岸の民間企業による開発は、食を中心とした総合リゾートアイランドであり、地域資源や特産品を活用し、地方創生事業に取り組み、地域活性化や雇用創出を実現し、事業展開している成功例として視察いたしました。

中でもパソナグループにつきましては、本社機能の一部を淡路島に移転し、地元農家と連携した農業人材育成に伴う現地での雇用、都市圏からの人材誘致、第6次産業化の取組など、様々な施策展開が実施されていました。

関連施設であるのじまスコーラについては、廃校利用による観光振興、雇用創出を実現しており、御宿町でも、このような開発で通年型観光、老朽化した施設の有効利用などが可能になるのではないかと感じました。

また、北淡震災記念公園は、阪神・淡路大震災からちょうど30年、震災の原因となつたずれた野島断層や当時の激震に耐えた建物が震災遺構として保存されており、震災の凄まじさを改めて痛感させられました。自然災害は避けられないものですが、当町も淡路島と同様に海岸沿いの町であることから、その体験や復興において学ぶべきことが多くあると感じました。

その他、淡路島は様々な企業と地域が一体となり、観光産業、地域産業などの復活を遂げています。地域資源を生かした官民連携の在り方、若者や移住者を増やす環境づくりなど、御宿町は淡路島同様に海岸沿いの町として応用可能な点が多数存在すると感じました。

今回の視察を受けていただいたスペイン大使館をはじめ、スペイン館館長など関係者の皆様、そして今視察研修の際に手配・調整をしていただいた議会事務局に感謝を申し上げまして、常任委員会の視察研修報告とさせていただきます。

以上です。

○議長（滝口一浩君） 以上で常任委員会視察報告を終わります。

◎一般質問

○議長（滝口一浩君） 日程第5、これより一般質問に入ります。

一般質問の制限時間は60分です。質問者も答弁者も簡潔にお願いいたします。

なお、質問については、会議規則第63条の準用規定により、同一の質問について3回を超えることができないことになっておりますので、ご注意ください。

また、一般質問通告書に記載のない質問については認められません。議長の議事整理権に基づき制止しますので、ご注意ください。

順次発言を許します。

◇ 伊 藤 城 祐 君

○議長（滝口一浩君） 通告順により、7番、伊藤城祐君、登壇の上、ご質問願います。

（7番 伊藤城祐君 登壇）

○7番（伊藤城祐君） 7番、伊藤城祐です。議長のお許しをいただきましたので、通告に従い、一般質問を始めさせていただきます。

まず、子育て支援と教育施策について、町長と教育長に伺います。

原町長は思い切った子育て支援や教育施策、移住定住対策を全国的にPRして御宿町の活性化を図ると有言されておりましたが、約1年が過ぎ、御宿町のトップとしてそれぞれの施策に関する見識と対策、現状課題をお聞かせください。特に伺いたいのは、町長の意思、公約の中にもありました「思い切った」「全国的に」というところを、どのような見解で推し進めるのかというところをお聞きしたいです。

同じように、教育長に伺います。

町長の方針について、教育長はどのような見解なのか。また、町長の意思を反映していくのか、具体的にお答えいただけますか。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 思い切った子育て支援について、国も異次元の少子化対策を掲げています。しかしながら、なかなか成果が上がっておりません。給食費の無償化について、国としても検討されておりますが、その動向に注目しているところです。それにかかわらず、町とし

ては、小学校の給食費無償化は新年度から実施したいと考えております。

教育政策については、教育委員会の策定した計画に基づき施策を実施しているところです。野沢温泉村との交流は御宿町独自のものであり、こういった事業は継続して続けることが重要と思っております。

移住定住対策につきましては、令和7年第1回御宿町議会定例会において、岩瀬議員から保育園留学の提案がございました。今も検討しておりますが、結論は出ておりません。こども誰でも通園制度が令和8年度から実施されることもあり、さらなる検討を進める必要があると思っております。

以上です。

○議長（滝口一浩君） 海老根教育長。

○教育長（海老根秀昭君） お願いします。

教育課としましては、町長の地域全体で子育てを支援していく考え方に沿った施策を推進してまいります。

現在、町では、今年の3月に策定しました第3期御宿町次世代育成支援行動計画及び子ども・子育て支援事業計画に基づき子育て支援施策を実施し、事業を推進しているところでございます。本計画は、こども家庭庁で令和5年4月に施行されていますこども基本法に基づいた事業計画であり、こどもまんなか社会を目指している内容でもあります。

教育課では、小中学校の教育と社会教育を通して子育て支援に携わっており、教育の大綱と教育行政基本方針に則って各種の業務が進められています。特に今年度は、御宿町合併70周年の年に野沢温泉村との海と山の子交流の海の交流事業が50回目を終えることができ、両町村の生徒にとって大変思い出に残る交流会となりました。これも御宿町の各関係機関のご理解、ご協力なくしてなされなかったことです。

また、社会教育に関わり御宿町出身の方や小中学校の児童生徒の活躍も多く見られました。広報「御宿」に掲載された内容を挙げますと、御宿町出身のプロサーファー・吉川広夏さんがサーフィン世界大会準優勝。御宿町出身で野球の主力選手、菰田陽生さんが在籍する山梨学院高校が夏の全国高校野球大会ベスト4、滋賀国体高校野球優勝、秋季関東地区高校野球大会優勝。陸上で御宿中2年、110メートルハードルに出場した善野京さんは、夏の県大会3位、関東大会出場、秋の県新人大会1位。ほかにもボクシング、チアリーディング、体操、ライフセービング、空手が掲載されました。

このように、様々な分野で多くの方が活躍しています。頑張っている人を知ると、私たち町

民はうれしい気持ちになります。私たちも何かに頑張って挑戦してみようと大きな励みになります。

御宿町の教育の成果を積極的に発信していくことにより、御宿町に関心を持つ人が増え、御宿町に移住する家庭が増えることにつながってくれると期待しています。

現在、御宿小中学校には御宿町小中連携教育推進協議会が設けられており、私はこの協議会を生かして、児童生徒、そして学校職員のウェルビーイングの向上と、児童生徒の学力向上や情操教育に力を入れたいと考えています。

これからも御宿町の特色を活かし、全ては子どもたちと先生、地域の皆様の笑顔のために、学校教育、社会教育を推進していく決意でいます。

以上です。

○7番（伊藤城祐君） ありがとうございます。

それでは、次の質問を伺います。2番、農・漁業施策について、町長に伺います。

農業や漁業の後継者が少なくなり、全国的にも第1次産業を継承していくことが非常に難しい状況になってきています。そこでまず、農業について伺います。

前石田町長が休耕田や不耕作地対策も踏まえ、大型の農地整理を行ったわけですが、昨今の農政事情も大きく変化しています。原町長は、御宿の農業について、どのようにお考えになっているのか伺います。

昨今の農業施策については、国の政策の誤りとも言える状況が垣間見えるところもありますが、米価格の上昇といっても後継者が増えるというわけでもないと思います。米は日本の基幹産業とも言われます。やはり何らかの支援体制を考える必要があると思いますが、いかがですか。

また、漁業についても同様に伺います。昔は、アワビ、サザエ、イカ等が豊漁の時期もあって、海産物がお土産の定番になっていた頃もありました。数年前から、伊勢えび祭りやキンメ祭りといった観光とのコラボも見えますが、漁業支援として海産物を観光資源とする具体的なお考えがあればお聞かせください。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） まず農業ですけれども、高齢化と後継者不足、これにより年々従事者が減少しております。この流れは本町に限ったことではなく、全国的なものと承知しておりますが、対策として、耕作面積の拡大、経営の法人化、これらによる事業の効率化、人材確保が有効であると考えております。

国の動向を注視しながらこれを進めることで、意欲ある従事者を支援したいと考えております。また、獣害による耕作意欲の低下も懸念されますので、さらなる捕獲支援、電気柵などの設置補助についても進めてまいります。

漁業支援として、海産物の活用については、従前から特産品であるイセエビ、キンメダイを活用した観光PRや誘客を行っております。昨今、海水温の変化により、水揚げされる漁獲に変化が見られる地域もあるようですから、漁業者のご意見なども参考にしながら留意したいと考えます。海産物に限らず、特産品は交流人口の増加など地域の活性化につながりますので、引き続きその確保、開発に向けた支援を進めてまいります。

以上です。

○7番（伊藤城祐君） ありがとうございます。

後継者不足は、農漁業を営む方にとっては大きな問題です。今後、第6次産業なども考慮し、地域活性化への施策を展開、期待しています。

次の質問に移ります。山梨県小菅村視察について町長に伺います。

日帰りの研修視察、ご苦労さまでした。私も参加させていただきました。

視察先の小菅村は、人口600人余りの山間の静かな小さな村ですが、東京都に隣接し、面積は御宿の2倍近くになると説明を受けました。産業や環境において、私は御宿町と重なる部分を感じられませんでした。町長はなぜ小菅村を視察先を選んだのか。そして、実際に視察をして、どのようにお感じになったのか。

また、町づくり先進地での視察は、新たな発見や出会いがあるわけですが、せっかく行くのですから、観光御宿というPRもありではないでしょうか。全国的にPRという町長の言葉、お考えは、このような場面でも注意深く付度する必要があると思います。

町長は、視察時の手土産としての町の特産品について、どのようなものが有効で御宿らしさを感じるとお考えですか。お伺いします。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 小菅村を視察に選んだ理由ですけれども、当日のバスの中でもお話はしておりますが、3年ほど前に地方創生についていろいろ考えている中で、立ち寄った書店で「700人の村がひとつのホテルにー「地方創生」ビジネス革命ー」という本に出会いました。本を読んで、いかにしてプロジェクトを成功に導いたのか。これに興味を持ちまして、その後町長になって全国町村セミナーに参加したときに、小菅村の船木村長と出会いまして、いろいろお話を伺い、ぜひ小菅村を訪れてみたいということで今回の視察に至ったわけです。船木村

長の取り計らいで、本の著者の嶋田俊平氏にも講演をしていただくことができました。

議員のおっしゃるように、小菅村と御宿町では重なる部分があり感じなかったということですが、成り立ちや環境が違うので当然だと思います。私視察に訪れたいと思ったのは、いかにして夢を形にするのか。どのようにしてプロジェクトを成功に導いたか。この部分です。村の皆さんの熱意が、それを達成したのだと感じました。誰かがやってくれるではなく、私たちがやる。このことが大変重要だと考えております。

また、視察という目的で小菅村に行ったので、御宿のPRについてはそこまで考えておりません。視察時に手土産という感覚も持っておりませんでした。

現在、御宿町特産品については、いろいろな方がチャレンジしてくれていますので見守りたいと思っております。御宿らしさという、どうしても海をイメージしがちですが、別の視点で考えるのもありかと思っております。この地域で問題になっているキョンについても、商品化にチャレンジしている方もいますので、そちらに注目したいと思っております。

以上です。

○7番（伊藤城祐君） 承知しました。

ちなみに、今回小菅村へどのようなものを準備されたのでしょうか。

（原町長「もう一度お願いします」と呼ぶ）

○7番（伊藤城祐君） 小菅村への手土産として、どのようなものを準備されたのでしょうか。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 持っていったのは、御宿町の岩の井のお酒、それから、お菓子のクッキー、この2つを持って参りました。

○7番（伊藤城祐君） 観光の町、御宿の町長の視察となれば、御宿の代表と言える立場ですので、しっかりとした配慮と行動が必要ではないかと思います。

農漁業も観光振興として人を引きつけることができるファクターではないかと思います。それぞれ大事に取り扱ってもらえればと思います。

次に、御宿町の環境保全対策について町長に伺います。

第1次産業と言われる農漁業は、今の御宿の礎となっております。これらの産業の連鎖により、観光産業も時代を築いた時期もあります。

先ほど質問しました農業、米作りは、広義的に見れば、漁業や町民の生活環境にも大きな影響力があるのはご存知だと思います。自然環境においては、先人が育て残してくれたミヤコタナゴ、ある意味で御宿の環境負荷の目安とも思われます。人々の生活に密着した生き物、ミヤ

コタナゴが消滅しつつある状況を、町長はどのようにお感じになっていきますか。

環境省や千葉県の庇護により環境づくりや整備を行ってきましたが、現状では尻すばみ状況となっています。この状況を町長はどのように理解していますか。今後、何らかの対策をお考えであればお聞かせください。

さらに、環境整備ということでは、町長の公約にもある駅裏の整備も急務ではないかと思いますが、今後の予定をお聞かせください。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） ミヤコタナゴにつきましては、確かに議員のおっしゃるとおりに環境負荷の目安の一つであると私も感じております。人口減少や高齢化に伴い、水田や里山の維持が昔よりできなくなっていることが一因にあると感じております。

ミヤコタナゴの生息保全は、令和元年度まで千葉県からの交付金がありましたが、現在は打ち切りとなっております。国・県の天然記念物の保護、保全は、生息地の市町村に委ねられた状況であり、国や県の関与は今後一層厳しいものと思っております。

今後については、継続してミヤコタナゴ環境整備事業、それと種の保存としての水槽での飼育事業の2つをしていきますが、生息が確認できないようであれば継続は難しく、飼育事業のみとなることは避けられない現象と捉えております。

今後の何らかの対策については、現段階具体的な対策は思い当たっておりません。

また、駅裏の整備につきましては、民間企業による提案が今ございます。駅裏だけでなく、御宿駅のバリアフリー、町の産業にも広く関わり合いがあることなので、今後地権者との対話も必要となります。重要な案件なので慎重に進めていく予定でございます。

以上です。

○7番（伊藤城祐君） 承知しました。

遡れば、タナゴの生息地に関する実施計画の策定では、里山の整備も含まれていたと聞いております。ぜひ地域振興施策としてお考えいただきたいと思います。

私は、議員として若輩者ではございますが、55年間生まれ育った御宿が大好きです。ぜひ町長も、時期にこだわらず、即効性のある施策を実施し、町民の負託にお応えいただければと思います。

以上で、初めての一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（滝口一浩君） 以上で、7番、伊藤城祐君の一般質問を終了します。

◇ 岩 瀬 環 樹 君

○議長（滝口一浩君） 2番、岩瀬環樹君、登壇の上、ご質問願います。

（2番 岩瀬環樹君 登壇）

○2番（岩瀬環樹君） お待たせしました。2番、岩瀬環樹。議長からのお許しがありましたので、一般質問を始めさせていただきます。

今回の一般質問は、大きく分けて3つになります。

まだ、やっと3年目になったばかりで、試行錯誤をしながら少しずつ前進していければと思っています。

前回まで、伝えたいことがたくさんあって、話し過ぎて余計伝わらなかったということが分かりましたので、今回は改善して、しっかり質問をして答えていただくと。そこから何か分かることがあればと思っています。

それでは、最初の質問です。これは1年前に質問させていただいた後の進捗についてです。

1、選挙公報のデジタル化についてお伺いしました。2年前の質問で、選挙公報を町のホームページに載せていただけないかということで、その後、昨年12月の町長選挙でそれを実施していただきました。本当にありがとうございます。

そこで、当該ページへのアクセス数。それから、現在新聞折り込みによって一挙配布している部数が今どのくらいあるか。その2つをお聞きします。

○議長（滝口一浩君） 総務課長。

○総務課長（吉野信次君） それでは、ただいまの質問にお答えいたします。

町ホームページ内の御宿町長選挙における当該箇所へのアクセス数についてでございます。令和6年12月15日執行の御宿町町長選挙についてのアクセス数ですが、選挙公報だけでなく、選挙前、選挙後について関係情報を合わせた総数で3,472件でございます。

次に、新聞折り込みによる御宿町長選挙公報一斉配布の部数につきましては、全体で2,255部を折り込んでおります。

以上でございます。

○2番（岩瀬環樹君） ありがとうございます。

お配りしている資料は……、そういえば僕もらっていないですけども、資料はありますか。資料はお配りされていない。分かりました。

2024年の広報にございます19ページ、人口の推移の中で、国勢調査なので令和2年になってしまうんですが、御宿の世帯数がそのときで3,092となっています。ですから、全てに配られ

ているわけではないと。いろんなところで置いてあるのを、それを自分で取りに行くという形になっていると思います。

この先、新聞もデジタル化されていく中で、皆様に見てもらうために、この先どのように考えているのかをお聞きしたいと思います。

公職選挙法によると、投票日2日前までに各市町村選管が各世帯に届けることを原則としているが、特別な事情がある場合は新聞折り込みなどでもよいとされ、実際には全有権者に行き渡っていません。総務省によると、現在最も多い配布方法は、郵便局やポスティング事業者による全戸配布、次いで自治会経由、新聞折り込みと続き、自治体職員が直接配布したり、シルバー人材に委託したりする方法もあります。

今後は、町としてどのようなふうにやっていくつもりかお聞きしたいです。

○議長（滝口一浩君） 総務課長。

○総務課長（吉野信次君） それでは、選挙公報の全戸配布の関係のご質問でございます。

選挙公報の全戸配布が基本とのお考えですが、選挙運動期間が、御宿町の場合は、火曜日から土曜日までの5日間となります。選挙公報の原稿は、あらかじめ候補者から頂いておりますが、告示日、火曜日の17時に届出を締め切り、選挙公報の掲示欄のくじ引後に印刷会社に連絡をして、印刷が翌日の水曜日の朝刊には間に合わない状態でございます。折り込みは木曜日になるということになっております。また、木曜日には、町公共施設5か所、郵便局など民間施設にも設置し、同時に町ホームページにも掲載をしておるところでございます。

町の選挙につきましては、選挙運動期間が短いため、あらかじめ選挙公報の設置場所に行けない人には郵便で発送できる旨、事前の広報紙で周知を図っておるところでございます。

また、選挙運動期間には候補者の選挙はがきの発送や通常の郵便もあるため、選挙公報を郵便で発送することは郵便局側も大変困難となっておるところでございます。県の選挙管理委員会にも確認はしたんですが、県内の市町村はどれも今のところ同じ対応との回答でございます。

ただ、今後、SNSに精通した方も人口的には割合が増えると思いますので、今後はそういうSNSを活用した対応も考えていかないといけないとは思いますが、今後も近隣や他自治体の動向も調査しながら対応していきたいと思っております。

以上でございます。

○2番（岩瀬環樹君） ありがとうございます。

では、2つ目の質問として、御宿小学校の更新事業についてお聞きします。

校舎コンクリート健全性調査の結果報告を、一、二か月前に議員協議会でいただきましたが、

その後の進捗があればお聞きしたいと思います。

○議長（滝口一浩君） 教育課長。

○教育課長（市東秀一君） それでは、御宿小学校の更新について、調査の結果報告後の進捗はというご質問でございますが、御宿小学校の校舎更新につきましては、更新の方法についての再検証、再検討をするため、6月定例議会において補正予算を計上、8月に契約を締結し、校舎躯体の劣化状況をよりの確に把握するため、御宿小学校の校舎コンクリート健全性調査を行いました。

調査の結果といたしましては、一部補修が必要なものの、校舎躯体のコンクリートについては直ちに改修が必要ということではなく、躯体自体は健全性が確保できるというものでした。

この調査結果を受けまして、議会議員の皆様には報告をさせていただいたところですが、町といたしましては、この結果を受けて、いま一度慎重な協議が必要であると考えており、建て替えなのか、改修なのか、現在検討しているところでございます。

しかしながら校舎の躯体が大丈夫だとしても、外観においては、コンクリートの鉄筋の露出やひび割れ、剝離なども見られます。また、小学校の施設内部の老朽化は著しく、早急な修繕が必要な箇所も多くあります。

できるだけ早く方針を決定し実行に移していきたいと思いますが、いま一度慎重に協議、検討した中で、校舎更新について対応したいと考えております。

以上でございます。

○2番（岩瀬環樹君） ありがとうございます。

それでは、次の3つ目、県道232号御宿停車場線歩道の石畳について。

このときは石畳をどうするのかという質問ではありましたが、まだ工事が終わってからではないと、それについてまだ協議が始まらないということでしたので、まず今の電線埋設工事の進捗についてお伺いします。

○議長（滝口一浩君） 建設環境課長。

○建設環境課長（伊藤広幸君） 電線埋設工事の進捗はというご質問でございます。

県道232号線御宿停車場線の電線共同溝の電線埋設工事、いわゆる無電柱化推進事業でございますが、本事業は県夷隅土木事務所が進めている事業で、現在御宿駅から国道128号までの260メートルの区間、延べ延長510メートルのうち240メートルの電線共同溝整備が進み、また水道管移設工事が終了いたしております。

本年度におきましては、国道128号との交差点付近、約90メートル区間において工事を実施

している状況でございます。夷隅土木事務所からは、引き続き残る区間の整備を進めていくと伺っております。

以上です。

○2番（岩瀬環樹君） 承知しました。

この工事は計画どおりに進んでいるのかどうか、今後の予定についても併せてお聞かせください。

○議長（滝口一浩君） 建設環境課長。

○建設環境課長（伊藤広幸君） 計画どおりにというところでございますが、若干スピード感は遅くなっているかなというところがございます。

来年度以降につきましては、清水橋を含めた残り180メートルの区間の整備を行い、次に、東電やN T Tなどの電線の移設をそれぞれの事業者が行い、抜柱、電柱を抜くということです。抜柱の後、歩道の復旧を進めていくと伺っております。県から、歩道の復旧方法については、今後町と協議したいと伺っております。

以上です。

○2番（岩瀬環樹君） ありがとうございます。

あと、県の仕事であるんですが、工事の業者が入る本当に数日前に連絡が来て、あの通りですから商店の方が多くて、そんなに1日遮られちゃうんだったら、早く言ってくれば休みにするよとかいう、そういう判断ができるよという声を聞いておりますので、なるべく工事があるときは、早くお声がけいただけたらと思います。

では、次です。4つ目としてウミガメを保護する条例について。

私たちウミガメ保護団体や行政の努力により、御宿がアカウミガメの上陸地であることの周知がなされ、町民のウミガメ保護に対する意識の高まりを感じています。現在までウミガメ保護に関する条例を有する都道府県は熊本県と高知県だけで、千葉県内の市町村ではいすみ市と一宮町だけです。御宿町が3例目となれば先進自治体と呼ばれることでしょう。

そこで、御宿町ウミガメ保護条例の制定についての町の考え方をお聞きます。

○議長（滝口一浩君） 産業観光課長。

○産業観光課長（米本貴志君） それでは、御宿町ウミガメ保護条例の制定に関する進捗についてのご質問ですが、まずウミガメの本町の状況ですが、令和7年では6月に2か所、7月に2か所、産卵のため御宿海岸に上陸いたしました。また、座礁、いわゆる死んだウミガメが打ち上がったのは2件でございました。

ウミガメの上陸の確認に際しましては、地元の方々からの情報提供によるもので、その後、情報提供していただいた方や産業観光課職員において現地確認をして、経過観察を行っております。

次に、条例制定の状況についてご説明いたします。

全国では12自治団体、県内では議員のご質問のとおり、いすみ市、一宮町がウミガメに関する条例を制定しております。この条例では、ウミガメや希少生物の保護やその意思、取組を承継することを目的として掲げ、条例や規則等で制定しております。

また併せて、当該目的を果たす役割として、保護監視員の設置を位置づけ、監視員による保護活動のルールについて明確化されております。この監視員は、海岸でのパトロールや産卵等の状況について役所への連絡などを主な業務として行っておりますが、本町においては、地域の皆さんの情報を基に有識者などからのアドバイスをもらい、産卵場所や時期、海岸の状況などを踏まえ、認定をもらった職員において対応しております。

このようなことから、本町においては、他の市町村において条例が定められております監視員制度を活用せず、職員による対応をしているため、現時点ではウミガメ保護条例について制定する予定はありませんが、監視体制の充実強化、海洋環境やウミガメの生息等について、町をはじめ沿岸部の市町村が一体となって条例化の必要性が生じた場合、改めて検討させていただきたいと思います。

以上でございます。

○2番（岩瀬環樹君） ありがとうございます。

当町の網代湾は、県内有数のアカウミガメの上陸地となっております。通常は6月から7月にかけて海岸各所で上陸、産卵が確認され、8月、9月にかけてふ化、脱出しています。ウミガメは非常に警戒心が強く、光を照らしたり、脅かしたりすると上陸しなかったり、上陸しても卵を産まずに途中で海に戻ることがあります。

そうしたことから、ウミガメを保護することにより卵のふ化率も向上すると思います。アカウミガメの産卵時期における海岸への夜間立入禁止や騒音の自粛などの規制をセットにした条例制定であると、より効果的ではないかと思っております。引き続き調査研究してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、2つ目の質問です。全ての人が希望に応じて活躍できる社会の実現に向けた男女共同参画社会形成の促進についてお聞きします。

男女共同参画社会とは、男女が社会の対等な構成員として自らの意思によって社会のあらゆる

る分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ共に責任を担うべき社会ですと、男女共同参画社会基本法第2条にあります。

また、内閣府男女共同参画局より、第5次男女共同参画基本計画における成果目標値が各項目ごとに設定されており、市町村職員の各役職段階に占める女性の割合、係長相当職が40%、課長補佐相当職が33%、課長相当職が22%、地方公共団体の審議会等委員に占める女性割合40%以上60%以下、農業委員に占める女性の割合30%、自治会長に占める女性の割合10%、消防団員に占める女性の割合5%、地方公務員の男性育児休暇取得率30%、男女共同参画計画の策定率、これは市町村において85%。ちなみに、この目標値は25年または25年度の目標となっております。

そこで、当町におけるこれらの最新値、女性の割合、あとは男性職員の育児休暇率がありますが、どのようになっているかお伺いいたします。

○議長（滝口一浩君） 総務課長。

○総務課長（吉野信次君） それでは、私のほうから全て、今お聞きになった割合をお答えいたします。

役場職員の役職別女性割合、審議会ほかでございます。係長相当職21分の14、67%、課長補佐相当職11分の3で27%、課長相当職13分の3で23%でございます。例年、内閣府が審議会委員等の委員に女性が占める割合について市区町村女性参画状況の調査がございます。これにつきましては、町が報告している令和6年度の審議会等の委員は142分の32、22.5%でございます。また、農業委員会は8分の2で25%、自治会長は10分の0で0%、消防団員につきましては129分の0で0%となっております。また、育児休業法による男性職員の取得率、制度につきましては、制度の情報は発信しておりますが、現在の男性職員の取得はございません。

以上です。

○2番（岩瀬環樹君） ありがとうございます。

押しなべて当町は近隣においても女性割合は高いほうかと思っておりますが、その中で目標値に最も乖離しているのが、やっぱり審議会等委員に占める女性の割合かと思えます。参画に向けた女性の意識改革など含め、会議の開催をオンラインで行うなどして、育児や介護中の女性も会議に参加しやすい環境づくりを進めて、委員の選出方法の見直し、それから各種団体への女性委員の推薦の協力要請など、審議会への女性登用を進めていただきたいんですが、いかがでしょうか。

○議長（滝口一浩君） 企画財政課長。

○企画財政課長（金井亜紀子君） 男女共同参画計画におきまして、あらゆる場面において男女がともに活躍できる環境づくりに努めるということと、町民に向けての意識づくりに取り組むということで、目標として記載されております。

各課において様々な会議の委員について各団体について依頼をしておりますが、男女を問わず各団体のほうから推薦をいただいておりますが、今議員からお話がありましたとおり、女性の委員選出についてもご協力いただきたい旨はお願いをしているところでございます。

現在、第2期男女共同参画計画の策定に向けて準備をしておりますが、そうした中でも今ご提案がありました会議の開催方法につきましては、多くの女性の方、育児、介護されている方も参加できるような、オンラインということも含めて検討してまいりたいと思います。

○2番（岩瀬環樹君） ありがとうございます。

その次ですが、やはり男性の育児休暇であると思います。これは、やはり女性だけが産前産後休業することで発生する男女間の休暇ギャップを僅かながら埋められ、その取得率が上がることで育児における女性の負担軽減になり、女性の社会進出を後押しすると思います。管理職、委員、議員になる女性が増加すれば、活躍する女性に憧れを持つ女子の選択肢も増えていきます。

そこで、育児休暇について、過去の申請数、取得数はゼロとおっしゃいましたが、過去の申請数、それからそれが、取得数がゼロであった理由、改善すべき点は何かお伺いします。

○議長（滝口一浩君） 総務課長。

○総務課長（吉野信次君） 育児休業制度の関係でございます。現在のところ、男性は取得はしていないんですけれども、女性が2名取得している状況でございます。また、制度を活用できる職員については、育休等でその後に育児休業制度を活用するので、うちのほうで把握しているのが5名程度いるということでの把握をしております。その他、ちょっと把握できない、うちのほうにお知らせしていない方もいらっしゃるかもしれませんが、把握している中では5名存在していると。

男性の取得というのは、今までもないんですけれども、今後夫婦の子育て環境の変化もございますので、できるだけ取りやすいような体制はつくっていききたいと思っておりますけれども、やはり使用する側の利用するという決断もまた一つあると思いますので、その辺がなかなか取得に向いていないという部分もございますが、できるだけ取りやすいような環境づくりはしていきたいというところでございます。

以上です。

○2番（岩瀬環樹君） ありがとうございます。

男性の育児休暇取得促進などを目的に育児介護休業法が改正され、令和4年4月と10月に段階的に施行されたものの、男女共同参画白書では、男性の育児休暇取得率について依然として低い旨の記載があり、これを喫緊の課題として、子供が誕生する職員がいれば、その職員と上司が面談して制度の利用を勧めるようにしていただくことをお願いします。

次に、育児介護休業法と次世代育成支援対策推進法の改正が本年4月と10月に施行されましたが、当町職員の働き方に対する影響や変化はありますか。

○議長（滝口一浩君） 総務課長。

○総務課長（吉野信次君） 特に変化のほうは感じていないんですけれども、先ほど申しましたとおり、取りやすい環境づくりはしていきたいと思います。

以上です。

○2番（岩瀬環樹君） ありがとうございます。

では最後に、第5次御宿町総合計画の前期基本計画には、障害者の雇用促進や適正規模の職員採用に取り組むとともに、男性職員の育児参加や女性職員の活躍を推進しますとあります。

御宿町では、障害者や難病患者に就労機会を提供する考えがありますか。

○議長（滝口一浩君） 総務課長。

○総務課長（吉野信次君） それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

町で就労している会計年度職員も含んで総数128名のうち、ハンディキャップをお持ちの方の雇用について、2.8%が基準となっております。御宿町の場合は3名の方を雇用すれば基準を満たすことになります。本年7月から充足しておりますが、基準を満たし続けられるように今後も積極的に募集、採用を図っていきたいと思っております。

以上でございます。

○2番（岩瀬環樹君） ありがとうございます。御宿町男女共同参画計画基本法では、女性の増加を目指しますとしていますので、実行していただきたいと思います。

それでは、3つ目の質問となります。未知の技術である脂質ナノ粒子遺伝子製剤を非臨床試験のまま特例承認し、予防接種事業に使用したことについてお聞きいたします。

私の生涯60年間に起こった出来事の中で最も衝撃的でありました。しかし、非常に重く繊細なテーマであり、恥ずかしながら2年間で躊躇してきた質問になります。

日本は1人当たり世界で最も多く新型コロナワクチンを接種した国です。なぜ日本はこれほ

どまでワクチンを打ち続けたのか。そして、現在においても一向に検証がなされないのは一体なぜでしょうか。そこには不都合な事実から目をそらせるためのトリック、アカデミアとメディアの政府に対する付度など、日本の社会の様々な問題が集約されていると考えます。

ワクチン接種・未接種にかかわらず、自分には関係のないことと思われている方がいたとしたら、どうか目を背けずに、少しでも関心を持っていただけたら幸いです。

最初の質問です。町に送付された冊子及び同封書類の閲覧についてお聞きします。

令和6年9月下旬に川田龍平といのちを守る会から「緊急メッセージ 打ってはいけない！ーレプリコンワクチンの不都合な真実ー」という冊子が、全国の自治体宛てに発送されたと聞いています。御宿町にも届いているかと思いますが、上記資料を町の職員、議員及び町内関係者が閲覧や回覧した記録はあるかお聞きします。

○議長（滝口一浩君） 保健福祉課長。

○保健福祉課長（吉田和幸君） ただいまの質問にお答えします。

そのような回覧、閲覧等の記録はありません。

以上でございます。

○2番（岩瀬環樹君） 分かりました。

それでは、続いて、そういった資料、これは冊子としていますが、資料などは、町のほうでは何か規定があって、見ないとか、廃棄するとか、または読むとか、回覧するとかという規定があるかどうかをお聞きします。ちなみに、あとどのくらいの量が、本当に読めない、業務に支障を来すようなぐらいの数が町に送られてくるのかどうかを聞きたいです。

○議長（滝口一浩君） 保健福祉課長。

○保健福祉課長（吉田和幸君） ただいまの岩瀬議員さんの質問なんですが、日々結構資料が送られてくるので、内容の確認はしますが、全部を把握するというのができない部分もあるので、どういうものを廃棄するとかという規定はございません。

以上です。

○2番（岩瀬環樹君） では、目を通していうことで理解してよろしいのでしょうか。この時期というのが、昨年9月下旬ですから、10月に届いたとしても、ちょうど時期が、恐らく臨時予防接種は地方自治法第2条第9項第1号に規定される第1号法定受託事務であったと思いますが、この秋から定期予防接種となって、実施は自治事務であったかと思いますが、それで間違いないでしょうか。

○議長（滝口一浩君） 保健福祉課長。

○保健福祉課長（吉田和幸君） そのとおりでございます。

○2番（岩瀬環樹君） ありがとうございます。

ということは、町に裁量というかウエートが多く、町のほうでアレンジしたりすることが可能になったというふうに理解するんですが、そういったときに、この前参議院議員の方の会から送られてきたものとかが、判断の何か役に立つんじゃないかということで送られてきたんだと僕は理解しているんですが、これを見ることができなかった。僕も内容は分かりませんが、見ることができなかったのは残念に思います。

それでは、次に質問いたします。

新型コロナウイルス感染予防接種が開始された令和3年2月1日より令和7年3月31日までの期間に、御宿町民であった人の以下の情報を求めます。

1、生年月日または抽出日時点の年齢。2、性別。3、死亡している場合の死亡日。4、転出している場合の転出日。5、転入している場合の転入日。6、当該ワクチン接種日とそれぞれのロット番号、接種ワクチンのメーカー、何回目の接種か。それらのデータの交付をCD-R等で、CSVファイル形式で保存したものを、統計を集めているので、それを町から提出していただくことができるかどうか。これは情報開示請求をすればいいのかなとも思うんですが、もう1年やっているプロジェクトなんです、僅かながら議員による依頼によって、自治体が自ら作成してくれたところもあります。

既に開示していただいた自治体の情報からいろんなことが分かっています。コロナワクチンが効いておらず、むしろ国民の生命、健康に害をなしていたことが明らかになりつつあり、当町は情報に協力した自治体の側でいてほしいと願っております。これについていかがでしょうか。

○議長（滝口一浩君） 保健福祉課長。

○保健福祉課長（吉田和幸君） 御宿町情報公開条例に基づきまして、情報の公開請求は可能だと思います。なお、公開情報につきましては、個別に確認させていただきますので、よろしくお願い致します。

○2番（岩瀬環樹君） 承知しました。では後日、伺って調整したいと思います。

この統計が、千葉県内の中核市というんでしょうか。大きな自治体で早く出していただいたので、それを解析すると、すごく有益な情報が得られました。

それが3つほどありまして、いわゆる皆さん一般的にいう死のロットと言われている番号、特定される番号から多くの死者が出ていると。もちろん死因は分かりませんが、例えば

13人、同じロット番号13人が接種していて、そのうち10人が亡くなっているという、当初から言われていた死のロットが存在するという事。

それから、亡くなった方が最後の接種から3か月以内に死んでいる方が多数であるということ。それから、最終接種日の前に死んでいる方々が結構多かった。これは多分独居の方で、接種してすぐに亡くなったんだけど、警察のほうで調べてこのぐらいの日にちだろうというので死亡推定日が出ているから、少しずれがあるということだと思うんですが、そういった情報は町民にとっても必要な情報だと思っております。本当は国がやるべきですけども、全く国はビッグデータを持っているにもかかわらず手を出さないようにしておりますので、市民といえますか、国民の力でどうにかここら辺をしっかりとデータを集めていっていますので、本当に協力いただけたらうれしいです。

では、次の質問です。

11月20日に行われた第34回感染症・予防接種審査分科会新型コロナウイルス感染症予防接種健康被害審査第二部会の審査結果では、進達受理件数は1万4,461件、うち死亡一時金・葬祭料1,862件、障害年金・障害児養育年金1,006件、医療費・医療手当1万1,593件、保留34件、未着手821件となっていて、過去45年間に行われた接種と比べ、死亡一時金・葬祭料に関しては、既に約7倍となっております。この史上最悪の薬害になっていることを、私たちは重く受け止めるべきだと思います。

厚生労働省によると、全国で医療機関から自発報告された副反応疑い報告制度による副反応疑い総数が3万7,555件、重篤症例9,255件、死亡症例2,300件であります。また、健康被害を受けた本人やその家族が市町村に問う予防接種健康被害救済制度では、健康被害申請数が1万4,269件、認定が9,310件、そのうち死亡認定が1,042件に及びます。当町ではどうでしょうか。

○議長（滝口一浩君） 保健福祉課長。

○保健福祉課長（吉田和幸君） お答えします。

予防接種健康被害救済制度による死亡認定を受けるには、町のほうに申請していただきまして、県を経由して厚生労働大臣が認定することとなっておりますが、町への申請のほうはございません。

以上です。

○2番（岩瀬環樹君） ありがとうございます。

それでは、副反応疑いのほうは医療機関から出されるんですけども、それに御宿町民は入っているかどうかお聞きします。

○議長（滝口一浩君） 保健福祉課長。

○保健福祉課長（吉田和幸君） すみません。ちょっとその辺の資料を持ち合わせていないので、申し訳ないです。

○2番（岩瀬環樹君） 分かりました。

これが、分かりやすく言うと2つ制度があって、片方は医療機関から出す、片方は本人、または身内からという形で報告をするということなのですが、これも医療機関から全然上がっていないんです。というのは、もう既に死亡認定が2,300あるのに対して、当然その2,300人に関しては医療機関から副反応疑いが出ている、報告が出ていなければならないはずなのに、ほんの一部しか医療機関からは出ていないんですね。重複しているのは306名です。2,300人亡くなっているのに、医療機関からその中の306人しか医療機関からは副反応疑いとして報告は上がっていないということなので、この数字はもっともっと膨大な数字になっていると思います。

死亡症例の2,300人のうち、情報不足等により評価不能が2,287名とあります。ということは、実際の99%以上を占めていて、残りが評価された13名の内訳が「因果関係を否定できない」が2名、「因果関係は認められない」が11名としています。ですから、実際はもっともっと膨大な数字になるんじゃないかと思っています。

その次にいきます。令和2年と比較して、新型コロナワクチン接種が始まった令和3年から現在まで、国・県・町で増加した死亡者数をお答えください。

○議長（滝口一浩君） 税務住民課長。

○税務住民課長（上野千晶君） それでは、死亡者数の推移につきまして、総務省が公表しております「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」に基づきお答えいたします。

死亡者数は、各年の1月から12月までの合計であり、直近で令和6年までの数値となります。令和2年と比較して、令和3年から現在まで国・県・町で増加した死亡者数につきましては、全国の死亡者数では、令和2年の138万1,568人と比較して、令和3年が6万8,252人増加、令和4年が19万2,333人増加、令和5年が20万6,865人増加、令和6年が22万7,355人増加となっております。

千葉県では、令和2年の死亡者数6万2,501人に対し、令和3年は3,224人増加、令和4年は9,819人増加、令和5年は1万1,105人増加、令和6年は1万2,705人増加しており、御宿町では、令和2年の死亡者数155人に対し、令和3年は10人増加、令和4年は11人増加、令和5年は24人増加、令和6年は20人増加という結果となっております。

以上でございます。

○2番（岩瀬環樹君） どうもありがとうございます。

お聞きになったように、我々一生懸命、皆さんと一緒に人口減少に歯止めをかけるような仕事を一生懸命している他方で、人口がどんどん減る要因になっているかもしれないワクチン接種を進めているという考え方もできると思います。

国の人口動態は、私、月例で出ているのを注意深く、この4年間見ております。累計は月別で出ているので、今12月だから9月あたりまで出ているので、そこを全部合計すると70万人規模になっているかと思います。先ほどおっしゃった数字足していけば分かると思うんですが、70万人規模です。これを私たちはしっかりと検証して、次の世代、次につなげていかなければいけないことだと思っております。

それから、国の事業であるから、こんな質問はどうなんだということを、ヒアリングのときに課長職から複数言われましたが、そのまま黙っていることが本当にいいことなのかどうかも、よく考えた上であります。

幾ら国の事業とはいえ、財政のこともあって、あれもこれもするではなくて、あれかこれかを選んでやる時期に来ているというのも聞いておりますので、国の事業であっても地方自治体がしっかりと考えを持って取捨選択していく時代ではないでしょうか。よく考えて、国の愚策には加担しない姿勢を見せていただきたいと思います。

このコロナワクチン、いわゆるコロナワクチンを善悪二元論で単純化するよりも、数え切れないほど多くの後遺症で苦しんでいる患者の方々や亡くなった方々と真摯に向き合うことが、この問題の最優先事項だと思っております。それに関連した資料を用意したんですが、今日は皆様に届いていないようなので、もし後日見ることがあれば、また見ていただきたいと思います、質問を終わりにさせていただきます。すみません、全部終わらなかったんですけども、次回また持ち越しさせてください。ありがとうございました。

○議長（滝口一浩君） 以上で、2番、岩瀬環樹君の一般質問を終了します。

ここで10分間休憩します。

（午前11時15分）

○議長（滝口一浩君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前11時25分）

◇ 藤 井 利 一 君

○議長（滝口一浩君） 1 番、藤井利一君、登壇の上、ご質問願います。

（1 番 藤井利一君 登壇）

○1 番（藤井利一君） 1 番、藤井です。議長のお許しにより、これより一般質問をいたします。

まず、今後の国際交流の在り方についてです。

本年5月31日、原町長が大阪・関西万博スペイン館を視察訪問しました。

次に、6月5日には、万博視察のために来日中であったスペイン上院議員友好グループと駐日スペイン大使が来町しております。原町長のスペイン館の訪問についてのいきさつ、そしてスペイン上院議員グループがどのような経緯で来町に至ったのかを、まずは伺います。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 国際交流についてなんですけれども、きっかけは4月16日に御宿町に寄せられた一本の電話から始まっております。東京在住の方で、日頃から御宿町をよく訪れている方から、大阪万博のスペインパビリオンで1609年の史実についての展示がある。御宿町の名前も船の写真とともに紹介されていたので、ぜひ町長にお伝えしたかった。まだ会期中なので、機会があればぜひ訪問をというご連絡をいただきました。

私が昨年12月、田邊副町長が今年4月にそれぞれ就任したこともあって、4月25日に、町長、副町長、議長、産業観光課長で、スペイン及びメキシコ大使館を表敬訪問いたしました。

スペイン大使館では、万博での展示に関する話題が広がり、期間中にスペインパビリオンを訪れたい旨をお伝えしたところ、後日万博への招待状を頂戴いたしました。その後、同席されていたゴメス公使参事官のご尽力により視察訪問が実現する運びとなりました。

先ほどあった、私が6月5日の公式来訪に先立ち、認識の深化と歓迎準備の一環として、5月末に万博会場を訪れました。スペイン館入館時には記念帳にサインをして、谷口香織館長が自らご対応くださいまして、展示の詳細などの説明をいただきました。

パビリオンに入ると、右手側にガレオン船の模型と救助という文字が展示されておりました。日本とスペインの友情を育むきっかけとなった1609年のサン・フランシスコ号遭難・救助の史実がイラストとともに紹介されております。これはSNS等でも、この展示を通じて初めて史実を知った方からの声も寄せられております。

また、記念品として、記念カップから特別記念版冊子「ガレオン船サン・フランシスコ号の物語」という本、600部限定のシリアルナンバー入りで、筆者の直筆サイン入りの600分の133番目を頂きました。これらは今、御宿町の役場内に展示しております。

万博訪問は、スペインと日本とのつながり、過去・未来について認識を新たにし、御宿町の歴史的意義を改めて感じる大変有意義な訪問となりました。

6月5日はすっきりと晴れまして、御宿町役場で、私のほか町議会議員、御宿町国際交流協会、御宿町観光協会、御宿町商工会の関係者一同で、スペイン国上院議員友好グループとパラシオ駐日スペイン大使を心から歓迎いたしました。

庁舎レセプションルームで懇談の場を設け、御宿町の紹介や交流を行いました。その中で、友好グループを代表いたしまして、マロト上院議員第一副議長より、「温かい歓迎に感謝している。今回の訪問では、国会議長や政府の要人とも会談したが、今日は友情という面での特別の日となった。日本との友情を大切にしたいと思っている」という言葉もいただきました。

交流を深めた後は、上陸地である田尻海岸、日西墨三国交通発祥記念碑をご案内し、月の沙漠記念館、御宿海岸の散策を楽しんでいただきました。

約5時間という短い滞在ではありましたが、世界に誇る御宿町とスペインとの友情の絆が一層深まりました。今後もこの友好関係を大切にして、両国の交流文化がさらに発展できるよう邁進してまいります。

議員のお話以外に直近の出来事といたしまして、10月9日、東京でのスペインナショナルデー・レセプションへの出席、10月15日、メキシコ・アカプルコ市から日本のともだち協会の市民5名が来町され、ご案内をしております。

また、6月の上院議員友好グループ来町に関する友好記念プレートの贈呈のために、駐日スペイン大使が12月17日に御宿町に来町されます。大阪万博のスペイン館の御宿町との関わりを示した展示物がありますが、スペイン側と交渉を行い、町民の皆様の開示できるようになりました。公開時期についての詳細は、もう少し時間をいただきたいと思います。

これからの国際交流を進めていくにあたり、遠く離れた国ですので、交流には費用を要するということで、町の財政と相談しながら、また、民間の力も借りながら進めていきたいと考えております。

6月の上院議員友好グループの訪問記につきましては、町のホームページの中の町長室に掲載しております。また、同様の内容を五倫文庫に寄稿させていただいております。

以上でございます。

○1番（藤井利一君） ありがとうございます。

続いて、10月8日には御宿町議会議員団が万博スペイン館を訪問いたしました。

そして、10月26日には、御宿町合併70周年記念式典に、メキシコ、スペイン両国の公使がご

臨席されました。

この半年間で4度スペインとの交流があり、しばらくの間なかった国際交流が原町長のスペイン館訪問を機に再開されました。私たちも議員視察でスペイン館を訪問した際には、スペイン大使館のご高配によりパビリオンの館長に案内をしていただき、館内に入り最初に目にしたのは、岩和田沖で座礁、沈没したサン・フランシスコ号の模型と当時の岩和田村の住民、特に海女さんたちによる乗組員救助の様子がイラストで紹介をされていました。

今回のスペインパビリオン訪問で、御宿とスペインの歴史的史実を再確認し、スペインの方たちが御宿との関係を非常に大切に思っていると感じたところです。

このような流れの中、今後、スペイン、メキシコ両国と御宿町の国際交流について、町ではどのように進めていこうとお考えなのかを伺います。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 今、いきさつについてはお話ししたんですけれども、先ほどちょっとお話ししましたが、特に万博での展示品、これをスペイン側と交渉して御宿町のほうに来るということになりましたので、それも含めて、どんどんそういったものを進めていきたいと考えております。

また、スペインに限らず、メキシコとの交流もございますので、そちらのほうも進めていきたいというふうに考えております。

○1番（藤井利一君） ありがとうございます。国際交流は、町にとっても大切な事業であると思っております。これからも積極的な事業展開をして進めていただきたいと思います。

次に、御宿町プレミアム付商品券の発行についてですが、御宿町では物価高騰の影響を受け、消費の落ち込んだ町の店舗を応援し、地域経済の活性化と町民の暮らしを支援するために、11月6日から「みんなでのりきろう！ハッピーチケット」を発行しました。

町内の消費の落ち込みは、物価高騰や町外大型店への買物客の流出、さらにはインターネットによる購買などが考えられております。

このような経済状況の中、町内店舗を応援し、地域経済の活性化と町民の暮らしの支援を目的とする今回のチケット販売は、町民の暮らしや地域経済にとっても有効な経済対策であったのではないかと考えております。

そこで、今回のチケットの販売状況や事業内容の詳細を説明願います。

また、この物価高騰は、まだまだ底が見えない状況です。今後も、今回のような国の施策として交付金事業が想定されると思いますが、町としてはどのような事業展開のお考えをお持ち

でしょうか、併せてお伺いいたします。

○議長（滝口一浩君） 産業観光課長。

○産業観光課長（米本貴志君） それでは、産業観光課より、初めに御宿町プレミアム付商品券の販売状況や事業の詳細についてお答えいたします。

プレミアム付商品券につきましては、物価高騰のあおりを受けたことから、町内における消費活動の喚起を図り、地域経済の活性化を図ることを目的に物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用したもので、令和5年度においても同様にプレミアム付商品券の事業を行っております。

今回のプレミアム付商品券「みんなでのりきろう！ハッピーチケット」は、1万円で1万4,000円分の買物ができ、販売数は7,500冊で1人3冊まで購入できるものです。販売ができる方は、住民票が御宿町にある方を対象としています。

販売期間は、令和7年11月6日から同月26日までで、土日も含めた21日間を予定し、販売場所は御宿駅前観光案内所で10時から15時までの間、チケットの有効期間は販売当日の11月6日から翌年1月16日までとなっております。

販売状況ですが、11月13日で7,500冊を完売となりました。

プレミアム付商品券の利用ができる町内の店舗は、前回参加した事業者に意向確認を行うとともに、ホームページや回覧板などを用いた参加者の募集を行いました。利用店舗の周知については、購入申込書と併せて一覧表を作成し、全戸配布を行いました。

事業の効果としては、消費者側からでは、1万円で1万4,000円分利用できるため、4,000円分多く利用することができ、事業者側からでは、短い期間で多く消費するという促進効果が図られ、地元経済の活性化につながったのではないかと考えております。

また、今回の御宿プレミアム付商品券事業を実施するにあたり、参加事業者の募集など、新たなお店の掘り起こしと、町民の皆さんに改めて町内の店舗を知っていただく機会にもなったのではないかと考えております。

以上でございます。

○議長（滝口一浩君） 企画財政課長。

○企画財政課長（金井亜紀子君） それでは、企画財政課からは、交付金事業の今後の事業展開についてお答えいたします。

去る11月21日の臨時閣議で、物価高騰対策などを柱とする国の総合経済対策が決定されました。

今回の総合経済対策では、物価高により厳しい状況にある国民を支援するため、寒さの厳しい冬の間の電気、ガス代の支援など、全国一律の物価高騰対策を講じるほか、地域のニーズに応じたきめ細かい対策を推進できるよう、重点支援地方交付金の追加交付も発表されました。

まだ町への交付額等の詳細が示されておりませんので、具体的な支援策の検討はしていませんが、今回、国の推奨メニューに市町村に対応していただきたい必須項目として、食料品の物価高騰に対する支援についての特別加算が追加されました。これは、プレミアム商品券やおこめ券などが該当いたしますが、これらだけでなく、従前の推奨メニューも含めまして、重点支援地方交付金を最大限活用し、物価高騰の影響を受けている町民の皆さんの暮らしを支援するため、しっかりと検討してまいりたいと思います。

以上です。

○1番（藤井利一君）　ありがとうございます。

今回のプレミアム商品券の発行につきましては、おおむね好評であったというようなことで理解をしております。また、今後このような交付金事業がありましたら、ぜひご検討をお願いいたしまして、一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（滝口一浩君）　以上で、1番、藤井利一君の一般質問を終了します。

◇　田　中　と　よ　子　君

○議長（滝口一浩君）　10番、田中とよ子君、登壇の上、ご質問願います。

（10番　田中とよ子君　登壇）

○10番（田中とよ子君）　10番、田中とよ子です。議長のお許しをいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

通告に従いまして、今後の町政運営について、町長にお伺いいたします。

原町長におかれましては、昨年の12月24日に就任してから間もなく1年を迎えます。1年前、新町長として庁舎内における人材を整え、新体制の下、約6,800人の首長として御宿町という大海原をこぎ出しました。

船出をしてからこの1年間、町長は御宿町のトップとして、精力的に、対外的に、それぞれにおいて様々な方々との交流等にご尽力されてきていることは充分承知しております。また、町民の声を聞くなどの目的を持って「ハラを割って語る会」を実施し、町民との対話に努力されていることは承知しているところです。このことについては、どのようなことが語られてきているのか。これらについては、残念なことです、まだ不明の状況であります。この後、塩

入議員から成果について等の質問があるようですので、そのときにお聞きしたいと思います。

一方では、議会議員との協議もいろいろされてきております。また、町長の手となり足となって業務を推進していく職員の声なども聞いていただくよう、以前から要望してまいりましたが、それについては各職員との話合いがされているものと確信したいと思っています。

これまで町内外からの方々から、どうですか、町長が替わって町は変わりましたか。どんな塩梅ですかなどと聞かれることが多々あります。現在でも、それは続いて聞かれることがあります。今までは、町長が各会議等における挨拶などで、まだ就任して4か月ですので、まだ6か月過ぎたばかりですと言われてきておりますので、住民からの質問で聞かれるたびに、そんなに急には変わりませんよ、1年間は見守ってくださいと答えてまいりました。そんな答え方でよかったのかどうか、今それぞれの一般質問の中で、町長が今までやってきたことを聞いて、こんな答え方でまずかったかなと、ちょっと反省しているところもあります。

なかなか町は変わらないんだねなどの声も聞かれます。町長に対する住民の期待が大きいから、そういうふうに聞かれるんだなというふうに痛切に感じています。

町長にとって、この1年間、激動の1年間であつただろうとお察ししますが、この1年を振り返って、どのような感想をお持ちなのか伺いしたいと思います。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 私が皆さんとともに思い描きたい御宿町の姿については、何度かお話をしておりますが、やはり1年たつにあたって、具体的に進めるためには、周りと組織とか、そういったものがもっとしっかり動けるようにしないと進まないなというふうに感じております。そのために、令和8年度からは重点施策を担当する新たな部署を設けて、事務とか事業を進めることを考えております。

また、諸般の報告でもいたしましたけれども、御宿ビーチタウン協議会、これは非常に大きな意味があると私は考えております。

以上です。

○10番（田中とよ子君） それでは、本題に入らせていただきます。

これから始まります2年目以降の町政運営について伺いいたします。

今さらっと町長おっしゃっていただきましたけれども、町政の執行はあくまでも町長であります。町政運営は町長のリーダーシップが必要であり、議会での協議の中でも、議員からは様々な意見が出ますが、それを酌み取り結論を出していかなければならないのではないかと思います。

今後の事業を実施するにあたり、経常的に行われるべき事業を除いて、従来からの計画等に基づいた事業展開をしていくお考えなのかどうか。あるいは、原町政カラーを打ち出して、現在の計画以外での事業の実施をしていくお考えなのかどうかを伺います。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 従来からの計画等に基づいた事業展開、これはもちろん大事です。令和7年の第1回御宿町議会定例会で、塩入議員より計画の連続性について、議決の有効性についてという質問がありまして、当時の田邊総務課長が答えておりますけれども、議決いただいた計画の可否判断について、計画はあくまでも計画であり、実施時点の社会状況や予算の制約により、絶対にそのまま実行できるものではないというふうに答えておりますが、私も同様にも思っております。

第5次の御宿町総合計画実施の前期が令和8年度までとなっております。後期計画については、令和7年度までの実施を見ながら、令和8年度中に策定いたします。

それから、公約として掲げた8項目を実現するためには、就任2年目にあたり、先ほど申し上げた新たな部署を設け、そこで進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○10番（田中とよ子君） 町民の負託を受けて就任1年が過ぎます。2年目を迎える町長として、今後何をしたいのか、何をするのか。中長期的な計画についての考えを示す時期に来ているのではないのでしょうか。

今後の事業等について、現存している計画との整合性について。特に老朽化している施設等、そういったことの計画の見直しや修正等をする考えがあるのかどうか。特に、財源等を勘案した事業の優先順位の表明も早々に必要ではないかと考えますが、今、次期第5次計画、それを7年度が終わった後検討していくんだというお話もありましたので、お答えがその中にあったのかと思いますが、改めて財源等を勘案した事業の優先順位の表明も必要ではないかと考えております。その点について、いかがお考えでしょうか。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 今ありましたように、財源との絡みも非常に重要ですので、それを考えながらこれからやっていく予定でございます。

○10番（田中とよ子君） 次に移りますが、ほとんど今までの質問等に含まれてきたことだと思います。重複している部分もあるのかなとは思いますが、改めてお伺いするということでお聞きいただきたいと思います。

新年度の予算編成をする時期に来ています。予算編成目標については、町長からは各所管等には既に指示がされていると思いますが、事業実施の予算措置における財源確保の考え方についてお伺いしたいと思います。

現状の町の財政事情ですが、義務的経費の増額については待ったなしの状態だと思われます。関連団体への負担金等々についても、増額が見込まなければならない状況に直面していることも避けて通れない事情があると懸念されています。

町が実施する事業、実施しなければならない事業についての歳入財源の確保についてはどのように考えられるのか。自主財源の確保は厳しい状況ではないでしょうか。

事業実施にあたっては、財源を起債に頼ることが多く見受けられます。起債については、あくまでも後世に負債を残す手段でありますし、特に少子高齢化が加速している当町では、今後の住民への負担が大きく増えることになるのではないのでしょうか。

今後、起債以外での財源確保について、どのようなお考えがあるのかどうかお伺いいたします。特に少子化対策等を踏まえて、政策的な町長のお考えを改めて伺いたいと思います。

○議長（滝口一浩君） 企画財政課長。

○企画財政課長（金井亜紀子君） 初めに企画財政課から、現在の町の財政状況や歳入財源の確保の考え方等についてお答えいたします。

本町の歳入は、地方交付税などの依存財源が町税などの自主財源を上回っており、自主財源の確保が重要な課題であると認識しております。

今後の財政見通しについては、歳入面では、国の経済対策や賃上げの動向により町税収入は一定の伸びを期待できるものの、本町における生産年齢人口の減少傾向を踏まえれば、大幅な増加を見込むことは難しい状況にあります。

一方、歳出は、議員ご指摘のとおり、高齢化の進展に伴う社会保障費や人件費といった義務的経費、関連団体負担金の補助費等が町税収入の伸びを上回る構造となっていることに加え、近年の物価高騰や労務単価の上昇が普通建設事業費や物件費など全ての経費を圧迫している状況で、その結果、政策的経費に充当可能な財源が著しく減少している状況でございます。

また、持続可能な財政運営のため、まずは自主財源の根幹である町税における収納率の向上や滞納整理に努めるとともに、適正な使用料、手数料の設定、町有未利用地の売却による財産収入の増加など、自主財源の確保と計画的な基金積立てなどの取組を進め、歳入予算に合った歳出予算となるよう、バランスの取れた予算編成を行う必要があると考えております。

次に、地方債の借入れについての考え方でございますが、地方債は長年にわたって使ってい

く公共施設等を整備する場合は、将来便益を受けることとなる後世代の住民と現世代の住民との間で負担を分かち、世代間の公平のための調整を行う役割がございます。

今後予定されている大型事業、主要事業を着実に進めるためには、一定の投資的経費は必要となりますので、その必要性や有効性、公平性などを十分に検討した上で、起債残高が増加することになっても地方債の借入れは必要であると考えてございます。

しかしながら、議員ご指摘のとおり、少子高齢化の時代にあつては、将来に過度な負担を残さないようにしていくことも非常に重要であると認識しています。現在、地方債の活用にあつては、対象となる事業の精査に加え、交付税算入率の高い有利な地方債や償還時期が偏らないような借入れを行うなど、将来の負担を見据えて慎重に発行しておりますが、今後においても町債の発行を最小限に抑えるとともに、基本的には発行額が償還額を上回らないよう努めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 企画財政課長に続いてお答えいたしますけれども、やはり起債は自治体の借金と言われており、後世に負担を残すんですけれども、財政負担の年度間の平準化、世代間の公平のための調整機能があること。また、後年後の元利償還金の一定割合が交付税措置される有利なものはございます。

一般的な財政負担に対応するにはどうしても必要なものであると考えておりますので、償還時期が多数重なるなど、後年後の負担が過度にならないように注意しながら、必要に応じて活用させていただきたいというふうに考えております。

以上です。

○10番（田中とよ子君） ありがとうございます。

一番心配していることは、少子化対策なんですね。先ほど申し上げましたけれども、負担をすべき人数が、今人口割合も逆三角形といいますか、一番底辺にある人数が増えていくんであればいいんですけれども、減ったままで逆ピラミッド型になっていくことについて、非常に懸案事項になるんじゃないかなというふうに思っています。

そのためにも少子化対策について、今後どのような政策、お考えなのかを伺いたいなと思って、少子化対策についてということで最後に申し上げたんですが、それについて何かお考えはありますか。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 先ほど伊藤議員にお答えしましたけれども、少子化対策とか、異次元のとは言いながら、なかなか国としても成果が上がっていないと。その中で御宿町もどうするかというと、やはりさらに小さい町ですので、やれることには限界があると思います。

ただ、今できないからといってやらなかったら、将来がもっと大変になるというふうに考えておりますので、先ほどありましたように、そういうところを見ながら有効に活用できるものを使いたいというふうに、今考えております。

ただ、少子化対策と言われても、少子化だけやれば全部うまくいくかということ、やはり伊藤議員からもあったように、農業とか漁業とか、産業、移住定住、そういったものと全部絡んでおりますので、それをつながけながら一番いい方法を模索しているところでございます。

○10番（田中とよ子君） ありがとうございます。

ぜひ少子化対策、生まれることばかりではなくて、子育てをするのにいい環境づくりができればいいなというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上で質問を終わります。

○議長（滝口一浩君） 10番、田中とよ子君の一般質問を終了します。

ここで、午後1時30分まで暫時休憩いたします。

（午後12時02分）

○議長（滝口一浩君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時30分）

◇ 土 井 茂 夫 君

○議長（滝口一浩君） 5番、土井茂夫君、登壇の上、ご質問願います。

（5番 土井茂夫君 登壇）

○5番（土井茂夫君） 5番、土井です。通告順に従いまして一般質問をさせていただきます。

今回は2点の件です。

長年この件につきましては、私自身折衝してきました。なかなかかなわなくて、私の説明不足が主としてあるのかなと、そんな思いもしました。

私は、この第1問目につきましても、一般の人がこういう事件に巻き込まれますと、かなり車の損害、もしくは命が奪われることだと、私自身理解しております。

早速ですが、具体的に説明させていただきます。

高潮発生時、主として海岸ごみを伴って漁港開口部から町道に流出するので、偶然に通りがかった車両へ、かなりの損害を与える可能性が充分考えられます。漁港開口部全体は6メートルです。私が幼少の頃、小学生の頃、御宿漁港も建設されたと思われます。

この問題が今まであったのかどうかは、それも私は分かりません。しかしながら、現実はこの問題が起きていますので説明させていただきます。

漁業者はその一部、約2メートルを車両の出入口として利用しています。結構重宝に利用しているわけですね。高潮が予想されたときは開口部を閉鎖し、平静時は開放するなどの対応が必要だと思われます。

補足説明しますが、海岸ごみは比較的大型サイズのものが多いそうです。また、地球温暖化だと思われていますが、潮位の上昇現象が岩和田漁港において、漁船に乗船するとき、高さ約30センチの踏み台を利用しています。つまり単純に言いますと、30cmほど潮位が全て上がっているんだなと、そう理解して結構だと思います。

ということで、この問題は、実は漁港区域と道路区域のほぼ境目にあるものですから、町にとって、建設環境課、産業観光課の縄張りのぎりぎりのところですので、なかなか折り合いがつかないのが実情でございます。私なんかに思わせれば、正直同じ御宿なんだから、うまく話し合ってやればいいんじゃないのと思うわけですが、片や漁業組合からの負担金もあるんだよと、それもよく分かります。でも、このことを解決しないと、あるとき見知らぬ人が、この件で事故に巻き込まれる、そういう事態がある可能性が充分あるわけですから、何とか解決してもらいたいと、そのように思うわけです。

そして、このことは両者が縦割りの行政の中で、こうやっているわけですから、願わくは町長や副町長にこの件についての裁定に入っていて、どちらがやったほうが理屈に合うのか、それを、私どもではできませんので、以後考えてもらいたいと思うわけです。

そして、そこで開口部の工事を実施する際は、道路管理者の建設環境課が実施するのか、また、漁港管理施設としての産業観光課、どちらが受け持つのか、2者の見解を述べてもらいたいと思います。

○議長（滝口一浩君） 建設環境課長。

○建設環境課長（伊藤広幸君） 開口部の工事を実施する際は、どちらの課が受け持つのかとのご質問ですが、仮にゲートの設置をしたら、道路管理の観点から建設環境課が検討、協議を進めていきます。ゲートを設置したときの影響などもございますので、産業観光課や漁協、漁業者等の関係者と慎重に設置の検討、協議をしたいと考えております。

以上です。

○5番（土井茂夫君） ありがとうございます。建設環境課が主体的になって進めるということとでよろしいんですね。ありがとう。この言葉をずっと聞きたかったんです。

ただ、私に言わせてもらえば、いつまでにこれをやってくれるのか。これが流れちゃいますと、来年の3月過ぎちゃいますと担当者が替わる可能性があるんですよ。それによって、それは聞いていません。私は知りません。また一から私はやらなきゃいけない。そうじゃなくて、3月中にやってもらえるんですか。それとも3月中から繰越しでもいいですよ。繰越しでも、予算を獲得してやってもらいたいと。それが私自身の願いですけれども、どうでしょうか。

○議長（滝口一浩君） 建設環境課長。

○建設環境課長（伊藤広幸君） 浜漁港の国道128号との交差点付近の高潮による車道へのごみを伴う越水対策につきましては、以前から土井議員さんから対策を講じられないかということでお話をいただいているところですが、本対策につきましては、現地を確認した際、船引場を利用する漁業関係者にお聞きしましたところ、船引場へは車両の進入があるため進入できなくなると困るというお話が当時ございました。

この場所については、ちょうどカーブのところでありまして、歩道がありません。路側帯の設置のみのため工作物は進入口を避けた場所のみ設置する状況でございまして、進入口の脇に設置してありましたガードレールのかさ上げ、大きいごみが引っかかるようにかさ上げをしまして、上下2段のガードレールへと改修して、できる範囲での対策を令和5年度に実施いたしました。

ゲートの設置につきましては、漁業関係者等と慎重に検討する必要がありますので、時期につきましては、いつということで、この場ではお答えは控えさせていただきます。

以上です。

○5番（土井茂夫君） それはつまり、この先いつになるか分からないということですね。そういう理解してよろしいんですか。じゃ、まだまだ解決できないようなことじゃないですか。あの状態だったら何らかの形でできるでしょうよ。だから、そんなに額もかからないはずなんですよ。

あなたが主体的にやってくれるということは、主体的に工事もやってもらいたいんですよ。皆さんに安心・安全を届けてもらいたいんですよ。あれが、何がある、これが問題、そんなことは、今までどおり分かっているんですよ。だから予算を要求して、かなったら、それから実施していきますよと。多少設計期間があるから、それはもちろんすぐというわけにいかないけ

れども、やっていきますよと。明言してくださいよ。

○議長（滝口一浩君） 建設環境課長。

○建設環境課長（伊藤広幸君） 漁業関係者との協議もございます。財政上のこともございますので、明言ということは控えさせていただければと思いますけれども、前向きに検討していきたいと思います。

以上です。

○5番（土井茂夫君） じゃ、いつになるか分からないと。まだまだずっとそういう形、危険な状態を皆さんの前にさらしておく、という理解でよろしいんですね。

大体、漁業者に相談するというけれども、あれは道路施設でやる場合は負担金はもらえないはずですよ、通常は。その負担金をもらえるということは、利害関係者であるからこそ負担金をもらえる状況ですからね。2分の1ずつの負担金がございますけれども、今漁業者については、産業観光課の課長が実際に漁業組合に行ってくれまして、そして、組合は経営が苦しいから負担はできませんよということも聞いてきたということを行っているわけですよ。ということは基本的に、道路予算なら何ら負担金をもらえる状況もないし、単独でできるんじゃないですか。もちろん話はしますよ。この部分はこういうことにしますからということとはしますよ。それを負担金の話で話すことはできないはずなんですけれども、いいや、これはもう。

○議長（滝口一浩君） 建設環境課長。

○建設環境課長（伊藤広幸君） 失礼しました。説明が悪くて申し訳ございません。

漁業者から負担金を頂くということではなく、道路管理の中でやっていくんですけれども、予算措置につきましては設計した後、金額等ございますので、財政担当と予算措置について協議したいということで、漁業者から負担金を頂くということでございませぬので、ご理解ください。よろしくお願いします。

○5番（土井茂夫君） 分かりました。そういうことであれば、私もご理解、この問題については、もう二、三年やっていますから。本当に飽きるぐらいやっています、これで私はこの一般質問で、もう二度と協議はしたくないと思っていますので、ひとつよろしくお願いします。

ですから、3月過ぎた場合だとしたら、次の課長にちゃんと引き継いでもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。

これにつきましては、そこまでにしまして、引き続きまして道路認定基準です。

御宿町は、昭和53年第4回本会議で第1回目の道路認定をしました。その後の社会的な変化、いろんな要素はあると思いますけれども、かなり認定箇所とか、認定基準とか、何か、基準じ

やないですね、道路橋は何橋あるとか、そういうもろもろ変化してきたということをお聞きしております。

まずは、町道の認定要件、町道の認定箇所は何か所か。認定される道路橋は何橋あるのか。そのうち補修工事を実施しなければならない件数は何件なのか。補修工事の予算総額は幾らあるのか。この5点について、一括してお答え願いたいと思います。

○議長（滝口一浩君） 建設環境課長。

○建設環境課長（伊藤広幸君） 初めに、道路の認定要件はとの質問でございます。

当町におきましては、平成29年度に御宿町町道路線の認定及び廃止基準を定めております。

認定の要件につきましては、道路路線の認定は、認定の範囲の道路のうち、その路線が交通上必要と認められる道路で、その道路敷地の幅員が4メートル以上であって、かつ次のいずれかの要件を備えたものについて行うものとしております。

1つ目が、路線の起点及び終点が直接公道に連絡すること。

2つ目が、路線の一端が公道に連絡し、かつ他の一端の終点に自動車の転回可能な広場が確保されていること。

3つ目が、路線の一端が公道に連絡し、かつ他の一端が公園、学校、河川等の公共的施設、その他これに類するものとして町長が特に認める施設に連絡すること。

4つ目が、路線敷地の所有者、隣接する利害関係人及び地区役員の同意が得られていること。

また、現に一般通行の用に供されている私有道路を認定する場合は、さらに6つの要件を備えている必要があります。1つ目が、道路敷地を町に寄附できること。2つ目が、道路敷地に所有権以外の権利が設定されていないこと。3つ目が、道路敷地が石標等により明確に区分されていること。4つ目が、道路敷地に支障となる物件がなく、極端に幅員が不定でないこと。5つ目が、家屋が連たんして2戸以上あること。6つ目が、道路が極端に屈曲していたり、階段状の形状となっていないこと。

これらの規定及び認定の範囲として町道認定する道路は、公共的利用価値のある道路としており、5つの道路を規定しております。

これらの基準を満たすようであれば、町道の認定をするものとしておりますが、路線の認定に要する測量及び登記に要する費用は原因者の負担となることや、路線の認定を申請する際は、必要な申請書類を添えて申請していただくものとしております。

次に、2つ目の町道認定箇所については、現在1,447本ございます。

次に、認定されている道路橋は、現在88橋でございます。

次に、そのうち補修工事を実施しなければならない件数は、令和3年度の定期点検時において46橋が対象となっております。内訳といたしましては、判定3、構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態、これが16橋。判定2、構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態、これが30橋となっております。このうち8橋につきましては補修工事を完了しております。

次に、補修工事の予算総額でございます。令和4年度の橋梁長寿命化修繕計画策定時の補修工事等の見込額になりますけれども、その時点でおおよそ4億2,000万円程度となります。

以上です。

○5番（土井茂夫君） ありがとうございます。

次に話すこととして、補修工事を実施する予定がある橋です。その利用者が1名ないし2名の件数は何件あるんですか。これは多分御宿にはあると思うんですけれども、何橋ありますか。

○議長（滝口一浩君） 建設環境課長。

○建設環境課長（伊藤広幸君） その内ということで、利用者が1名または2名の件数は何件かということございまして。現在、交通量の調査を実施していませんので、正確には認識ができておりませんが、利用者が少ないと見込まれる橋の数でお答えしますと、5橋程度あると思われます。

以上です。

○5番（土井茂夫君） 恐らく昭和53年当時の道路の認定を第1回目としてしたわけですが、多分その中のうち、1人や2人の件数は5橋あるよと。そういう理解でよろしいですか。

○議長（滝口一浩君） 建設環境課長。

○建設環境課長（伊藤広幸君） ただいまの5橋というのは、1人または2人の件数が何件かという中で、また補修工事を実施する予定があるもの、こういった中から5橋見込まれるという……

○5番（土井茂夫君） 5橋。

○建設環境課長（伊藤広幸君） 5橋。5つです。

以上です。

○5番（土井茂夫君） 皆さんもご存知のように少子高齢化ですよ。そして、地方部は、さらに人口減少ですよ。私、結構いろいろなところ、山間部とか見ますと、本当に住んでいる人が少ない中に町道があるんですよ。住んでいる先が1人か2人、それも高齢者ですよ。それは必要性は分かるんですけれども、やっぱりこの補修とか何かには多大なお金がかかります

よね。

そうした中で、特に危険だということであれば致し方ないんですけども、ある程度この橋を補修するにも、まともな設計じゃなくてなんて言い方はちょっと言葉は悪いんですけども、荷重の少ない橋、車が来るわけじゃないし、来るのはキョンとイノシシぐらいしか来ない。そういうようなところが結構、七本地先、上布施地先にはあるわけですよ。そこでそういう橋は、単に今まで道路認定して認めたわけですけども、私は時代に即して、これもう見直していくべきじゃないかなと。

先ほど話した荷重関係は、だからもっと軽い対応でいいんじゃないかという一つもあるんです、一つの案としてね。だんだん空き家が、そういうところも増えてきているんですよ。そこに本当にお金をかけるべきかなと思うと、かけるべきところにかけるよと言いたくなるような場所が多々ありまして、その息子たちが地元に戻ってきてくれればいいんですけども、ほとんど戻ってきていない家庭が多い感じですね。

ですから、もうそういう橋はお金がかかりますから、よく見直していったらいいんじゃないかなと思うんですけども、どうですか。

○議長（滝口一浩君） 建設環境課長。

○建設環境課長（伊藤広幸君） 橋の管理にお金がかかるということでご指摘いただきました。

昨年実施しました七本地先での工事におきまして、2橋連なっておりました。その先が、やはり住まう方が少なくなっているということで、その際には2橋から1橋に減らさせていただいて、今後のメンテナンスがかからないような方法も選びつつ実施しておりますので、他の橋梁をやる際には、代替、あるいはそういう橋としての減少ができるのか、これも踏まえて実施しておりますので、引き続きそういう視点でやっていきたいと思っております。

以上です。

○5番（土井茂夫君） 橋を架けるとか、道路を造るということは、利用者がここの周りの土地を利用して、いろんな形で生産していく。それで収益を上げていく。もう一つの大切なことだと私は思っていますけれども、今課長が言ったように、その箇所なんか見ると所有者は一人しかいないですよ。畑地の所有者は、その家庭のその人しかいないんですよ。

だから、それは工夫したということは、これは喜ばしいことですけども、一人が住んで、周りの土地はその人の土地全部だというような土地って、やがてはこれは申し訳ないですけども、空き家になるとか何かになって、町のほうもそういうことを対策を講じないと、これは増えていきますよ。だから、私がそう何回こういう、ちょっとあれなんですけれども、少なく

ともお金がかからない形で直すべきだなと思うわけです。

周りのその人本人だけじゃなくて、周りの土地がどこの人の土地で、実際にはそこに来るか来ないか、利用するか、だからつまり道路を使うか使わないかですよね。そういうのもカウントしないと、私が今言っているのは、多分場所的には一致しているわけですがけれども、そういう状態が徐々に徐々に増えて、さっきも言いましたけれども、イノシシやキョンのすみかになっちゃうような、そこにお金を投入していくべきかというのは、どうも私は疑問があるんですよ、正直。少しぐらい我慢して歩いていけばいいんじゃないかなと。実際私そこを歩いてみましたから。人が歩く程度は何ら支障ないですよ。郵便屋さんが来たら、道路のそんな、町道のもっと寄与の高いところにポストを置いておいて、それで入れてもらえばいいし、宅急便屋さんもボックスに入れておいてもらえばいいような場所が、ここに限らずほかにもあるんじゃないかなと。今言った5橋のうちの1橋で、あと4橋もそういう状態じゃないかなと、私はちょっと類推しているんですが、そういう形で使うべきところに使っていきましょうよ。額が大きいから余計なんですよ。これって3,000万円かかっているんですから、ちょっとした橋でね。

その辺はそういうことにしまして、砂丘橋の補修につきましては協議会でも話が出ました。私はやっぱり砂丘橋を補修する上で、せつかく用意されている国・県の補助金がある中で、それを使うようにしないと、町民の財産が幾らあっても足りないかと、そういうイメージが私自身は高いです。少しでも県の金を引き出してこようという。また、それだけ用意してあるわけですから、引き出しに入れるわけですよ。タイミングはどうかは時期があるんだとは思いますが。

そうした意味でも、あの砂丘橋というのは、つるしびなやると必ず砂丘橋を渡ってラクダ像を、王子様、お姫様のラクダ像を見に行くんですよ。これは見ていて本当に思いました。それほど観光にとっては、本当にあそこがメッカだなと思う次第でした。

そうした中で、その1橋が実は産業観光課が担当だと。あとのほかの橋だと、87本は建設環境課の橋の担当ですよ。私は、どうのこうのというより、平たく見て物事は思うんですが、産業観光課がただこれ見方するんじゃないくて、全体として費用がかからないからこそ、町民の見方ですよ。そういう意味で、産業観光課が管理しているということは、たった1橋だけ管理していることは無駄だと思います。これは昔の歴史があるということは聞いています。だけど観光課関係は補助金がないんですよ、補助金がその後の。あるのは国土交通省系の補助金なんですよ。それを組み入れて、いろんな調査物とか何かが来たときでも、対応できるのが1橋も46橋も、47橋も46橋も俺は変わりはないと思いますよ。こんな大胆な言い方をしちゃって

も悪いんだけども。

やっぱりそれはそれで、観光課から奪い取るというわけじゃないけれども、引き渡してやっていくということが、あなたの課にとっては確かに一つ増えるから、残業が増えたりいろんなことをして大変なんだよということは分からなくはないですよ。でも町民から見て、我々は町民から見なければいけないですから、町民から見てより効率的な行政運営をするには一つ分かれる。産業観光課から建設環境課のほうに移管するのがベストだと思い、極力早く道路認定してもらって移管すると。と私は考えています。

ですから、ほかの人の意見もあるかもしれませんが、これについては。そういうことで、過去の経緯は過去の経緯としていいんだけども、そういうことをやっぱり考えていくことが大切じゃないかなと。

この席だからこそ、皆さんにそういう意味では判断してもらえそうなことじゃないかなと思ひまして、強いてここで挙げさせてもらいました。

それと、もうちょっと先、遡っちゃうんですけども、御宿町の最初の町道は、昭和53年12月招集の御宿町議会第4回定例会において、延長25万9,938メートル、路線数1,509本が認定されました。

ただし一町議から、今回の路線数1,509本と多いから漏れた場合どうするかの質問がございました。当時の建設課長は、改めて認定していただくとの回答があったが、今後そのような案件が出た場合には、要件に合致すれば認定していくのか、建設環境課長、よろしくお願いします。

○議長（滝口一浩君） 建設環境課長。

○建設環境課長（伊藤広幸君） 当時漏れていた路線の認定のお話だと思うんですけども、その件につきましては、今後そのような案件が出た場合には、要件に合致、先ほど要件をお話ししておりますけれども、要件に合致すれば認定していくのか、基準に照らしまして、新たに町道として認定する必要があると判断いたしました際は、町道として議会のほうで認定いただくことになるかと考えております。

以上です。

○5番（土井茂夫君） ありがとうございます。

こういう行政を扱っている人って、特に道路を扱っている人、先ほども話してくれたとおり、認定要件は何だというと、これこれこれこれですね、ことはもちろん知っていますよね。さらに、一般の人というのは、このことが本当に知っているかということ、過去に何かしらのやった

ことがある人はもちろん知っていますよね。ほとんど、私何%なんていうことは言えないんですけれども、言葉であやでいうのなら80%以上の人は、この件を私は知らないのが普通だと思っています。これって何って、また初めから勉強するような年代でもないし、だから知っているつもりで行政側は話していると思うんですよ。それは当たり前のあれですよね。ところが、一般の人は本当に知らないんですよ。こうしてやればやってくれるの。じゃ、いいよいいよ。こんな感じで全体を含めて理解し合うわけですね。肝腎要のところは本当に押さえておけばいいのに、押さえるという知識がもともとないと思うんです、私は。経験した方はさっき話したように持っていると思いますよ。でないと、やっぱりその流れに沿えなく、やってくれるもんだなということですね。一般の人は善意に考えて、後からあの人やってくれなかったよと、そんなような捉え方をするのが、私は普通だと思うんですよ。

そんなケースの方は、やっぱり取り残されていっちゃうんですよね。何言っても理屈的なことも分からないし、本当に無邪気というか、無知って、この言葉本当に言っては申し訳ないですよ。無知な感じですから。その辺をやっぱり行政側はちゃんと拾い上げて、ほぐして、こういっているんだなということを、ぜひやってもらいたいと思います。

いろいろ言いましたけれども、ひとつ前向きに対応していただければありがたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

以上で私の質問は、終わらせていただきます。

○議長（滝口一浩君） 以上で、5番、土井茂夫君の一般質問を終了します。

◇ 塩 入 健 次 君

○議長（滝口一浩君） 3番、塩入健次君、登壇の上、ご質問願います。

（3番 塩入健次君 登壇）

○3番（塩入健次君） 3番、塩入です。議長よりお許しをいただきましたので、一般質問のほうをさせていただきます。

まず、1番目といたしまして、町の情報発信、ホームページ、SNS、防災無線等についてお伺いしたいと思います。

1つ目、町のホームページ、ウェブサイトですね。これは見た目、機能面において、現状では非常に陳腐化したイメージを受けます。この現状の仕様になったのはいつ頃なのか。また、この陳腐化した状況をいつまでも放っておくのではなく、今後リニューアルするという予定があるのかどうかということについてお伺いさせていただきます。

○議長（滝口一浩君） 企画財政課長。

○企画財政課長（金井亜紀子君） 現在のホームページにつきましては、安全で効率的な運営を図るため、管理サーバーのクラウド化と、シンプルで見やすく、情報が探しやすいホームページを目指しまして、令和3年度にリニューアルを行ってございます。

現在、議員ご指摘のとおり、なかなか探しづらいといったような状況がありまして、現状のホームページとして課題があることは認識してございます。

今後、リニューアルの予定はあるかのご質問でございますが、情報の収集にはインターネットが欠かせない時代となっておりまして、ホームページは重要な情報源となっております。多くの方が自治体の情報をホームページから収集されることから、閲覧者に知りたい情報を分かりやすく提供することはもちろん、アクセシビリティへの対応やスマートフォンでの機能性の向上など、現在全面的なリニューアルに向け検討を始めているところでございます。

○3番（塩入健次君） ありがとうございます。

令和3年度なんですか、今の状況になったのが。随分新しい、つい最近のことなんですけれども、それだけ今のホームページというのが、ちょっと昔のホームページがあまりイメージが湧かないのですけれども、そんなに新しいんですねということ、改めて分かりました。

これは多分皆さん感じていると思うんですけれども、全体を通してまず表示が遅くて、私のイメージですけれども、無駄に画像が多くてデータの読み込みに時間がかかるとか、そういうような印象を受けます。特に最初のページですね。無駄に時間がかかって、ようやく開いたと思ったら、ただ4つのメニューを選ぶだけという無駄なページがあって、そこから、暮らし、行政とか、移住定住とか、そういうのを選んで、ようやく本題のページに飛べるというようなことで、通常、最初のページに、やっぱり一番載せたい、最新情報とか、更新履歴みたいなのが出てきてほしいなというふうに、私のほうはすごく思うんです。

また、今回の質問にあたって、私は少しホームページ、いろいろ触らせていただきました。そうすると、例えば何かの情報を探したいということで、ぱっとひらめいたのが帯状疱疹ウイルスの助成を受けるにはどうしたらいいんだろうみたいなものを調べてみようと思ひまして、ホームページ最初の画面にライフシーン別検索というのが一番大きく出ます。今日は昨日の地震の影響で緊急情報が出ていますけれども、これが一番メインで最初に出てくるんですけれども、私これで帯状疱疹ウイルスのワクチンということで、健康・医療というのを選んだんですけれども、そこには出てこないんですね。

結局、もう分からないからいいやと思って、検索のキーワードを入れて検索して、ようやく

たどり着いたということなんですけれども、それとはまた別に、以前第2回の定例会で、民生委員の周知が足りませんよということで、私ご指摘させていただいたところ、そのページが新しく追加されたんですけれども、それがライフシーン別検索のごみ・リサイクル、これを選ぶとそこのページに出てくる。何で民生委員の情報がごみ・リサイクルの中に出てくるのか理解に苦しむわけです。そういう部分でホームページの管理というものが非常にできていないという印象を受けるんですけれども、そのあたりについてご説明お願いできますか。

○議長（滝口一浩君） 企画財政課長。

○企画財政課長（金井亜紀子君） 以前岩瀬議員のご質問にもお答えさせていただきましたけれども、現在のホームページは、現行のホームページへのアップまでが各課で対応している状況がございまして、企画財政課のほうで定期的にはチェックをかけまして、リンク先の張り間違いであったりとか、今議員さんからお話ありましたとおり、ライフシーン別から検索をかけた場合と、通常の課という、通常の行政業務からかけた場合で、表示の仕方が差異があるというようなところが見受けられるところは、定期的に確認した上で原課のほうに連絡をして直していただくというような仕様を取ってございます。一括管理という形を取っておりませんので、現状そういった形でホームページ上の差異というか、間違いがあって、それについて全てのチェックができていないという状況が現状のホームページの管理運営上にはございます。

その点も、今検討している中では非常に費用的には大きくなるんですけれども、入力にあたって、ある程度の基準、そういったチェック体制が取れない場合はアップができないというような、自動的なそういったシステムを導入ができるんじゃないかということで、そういったことも踏まえて、改善に向けて検討しているところですが、現状についてはそういった形で漏れてしまっているのがあるということでございます。

○3番（塩入健次君） 今おっしゃられたように、以前も岩瀬議員のほうからホームページのいろいろ表記の違いであるとか、そういうものが統一されていませんよということで指摘のほうはされていて、今後、マニュアルに沿って庁舎内で研修を実施していかれるというようなご答弁をいただいていますけれども、今のページを全部見直して統一させるという作業は膨大な作業になるのでとてもできないと思うので、やはり一からホームページのリニューアルというものを最優先に考えるということが必要ではないかと思います。その辺考えておられるということですので、ぜひともですね、基本的に御宿町、どこにあるの、何があるのって、知らない人がまず御宿町と調べて出てくるところで、町の顔とも言える存在でもありますので、リニューアルのほうも含めてご検討いただければというふうに思います。

続きまして、閲覧数の解析ということで、閲覧数のほうの解析を行えば、閲覧者の関心の高い情報というものが把握できると思いますけれども、現状のホームページで閲覧頻度の高いページというのは、どういったページになるのかということでお答えいただければと思います。

○議長（滝口一浩君） 企画財政課長。

○企画財政課長（金井亜紀子君） 閲覧頻度の高いページはどれかというご質問でございますが、閲覧頻度につきましては、その月のイベントや事業等により大きく変わってきますので、直近ではプレミアム商品券のページの閲覧数が一番多くなりましたが、令和6年度の年間閲覧数が一番多かったページは、御宿ウォーターパークの閲覧でございます。また、年間の検索数におきましても、ウォーターパークが一番多く検索されているという状況でございました。

○3番（塩入健次君） ありがとうございます。

先ほどの情報のたどり着きにくいよという話とも関連するんですけれども、閲覧頻度の高いページというものが当初から分かっているのであれば、なるべくそのページには容易にたどり着けるような工夫をすとか、そういうことも考えられると思いますので、そういったことの対応についても、よろしくお願ひしたいと思います。

続きまして、現在町が公式に発信しておりますSNSというのが、旧ツイッターのXによります御宿町広報係、これが企画財政課の所管となっていて、こちらONJUKUナビというのが産業観光課の所管となっております。また、地域おこし協力隊によるInstagramのアカウントがまた別途あるようなんですけれども、町の直接管理しておりますXのほうの2つのアカウントについて、その発信内容、発信頻度などを踏まえた効果をどのように捉えているかお伺ひいたします。

○議長（滝口一浩君） 企画財政課長。

○企画財政課長（金井亜紀子君） それでは、初めに、企画財政課が運用しております広報係のXについてお答えいたします。

広報係のXにつきましては、各課から依頼される情報や広報の特集ページのお知らせなどを発信してございます。最近では、津波警報などの緊急防災情報のほか、商品券の販売状況やパブリックビューイング開催の周知、また御宿町が紹介されるテレビ放送の告知などを発信しています。

Xの投稿頻度が少ないため効果を検証できる状況にございませんが、Xは若者を中心に利用者が多く、そのリアルタイム性と拡散力に加え、文字だけでなく画像など視覚的に情報発信ができ、地域の魅力をダイレクトに伝えることができますので、自治体の広報活動においては有

効的なツールの一つであると認識しております。

今後は、Xの特性を生かしまして、できる限りリアルタイムで旬な情報を発信し、Xの効果的な活用に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（滝口一浩君） 産業観光課長。

○産業観光課長（米本貴志君） 続きまして、産業観光課では、こちらONJUKUナビの状況についてお答えいたします。

まず、フォロワー数ですが、本日、12月9日付で現在2,037名となっております。その発信内容ですが、町営ウォーターパークや海水浴場などの情報、ビーチバレーボール大会や町にとって関係性の高い事業、イベントについて、期間や時間、場所などをはじめ、見どころなどについて周知しているところです。

掲載による効果については、正式な数字としては把握することが困難ですが、町営ウォーターパークでは小イベントの情報を掲載することで利用者の増加につながるなど、効果はあったと考えております。

また、他のイベントについても、見ていただいた方がどの程度参加したか、この辺もなかなか確認のほうを取りづらいですが、本町で行われるイベントを知ってもらうきっかけにはなったと思っております。

発信の頻度については、町営ウォーターパークについては毎日掲載し、その他の企画展やイベントなどについては開催前に掲載するなど、情報提供に努めているところです。

以上でございます。

○3番（塩入健次君） ありがとうございます。

確かに、産業観光課のほうのこちらONJUKUナビは、夏場とか連日のように、ウォーターパークの状況ですとか、満員で入れませんとか、そういうことが発信はされておりました。また、津波で今日は閉鎖しますとか、そういうことが発信されているのは確認しております。

また、広報係のほうのXなんですけれども、かなり発信頻度が少ないように見受けられます。町ホームページのほうのソーシャルメディアの一覧というページのところで、目的のところに、幅広くタイムリーな情報発信を行うためというふうに目的が書かれているんですけれども、果たしてこれは、広報係という名称もついているというところで、その役割を果たしているのかどうかというところに、そこが私疑問を感じるのですが、この発信頻度について、もうちょっと、何でこんなに少ないのかというところをお伺いしたいんですけれども、お願いできますか。

○議長（滝口一浩君） 企画財政課長。

○企画財政課長（金井亜紀子君） 広報係のXにつきましては、2012年からスタートしてございまして、取材等で外に出かけた際に係の者が見てきた情報を伝えたり、また各課から、こういったものを告知してほしいというものを取りまとめてお知らせするためにスタートしたんですが、今議員ご指摘がありましたとおり、実際には広報が発行されたときのお知らせであったりとか、こういった緊急なお知らせ以外はほとんど発信できていないという状況で、先ほど申し上げましたXを効果的に利用しているとは言い難い状況でございます。

今後につきましては、広報係は外に出る機会も多くありますので、行事のお知らせだけではなくて、広報係が出て行って、まちの様子であったりとか、そういったものも発信できるように努めてまいりたいというふうに思っております。

○3番（塩入健次君） 承知いたしました。

このXの両アカウントですけれども、運用ポリシーというものが定められておりまして、町のホームページにも記載がされています。今答弁にもありましたけれども、様々なイベントなど実施されているんですけれども、Xにて発信されるもの、されないもの、その境界線というのがすごく曖昧というか、広報紙新しいのが発行されましたよというの、その月によって出たり出なかったりという状況が散見されるわけです。

この対応がまちまちなことについて答弁を求めたいと思いますが、いかがですか。

○議長（滝口一浩君） 企画財政課長。

○企画財政課長（金井亜紀子君） 今議員ご指摘のとおり、XやInstagramなどの利用にあたりましては、御宿町ソーシャルメディア活用ガイドラインに基づきまして、各課においてアカウント運用ポリシーを作成し、情報発信を行う目的や内容等を設定して運用しているところでございます。

情報発信の基準については、行政情報全般はもちろん、イベント情報や観光スポット、その他地域に関する情報などが中心となりますが、運用時における情報発信の内容選定やタイミングなどは、各課において作成するアカウント運用ポリシーに基づき適宜決定して実施している状況です。

広報係のXにつきましても、この運用ポリシーに基づいて発信の内容等を選定してございますが、先ほどお話ししましたとおり、町に関する情報であれば、ガイドラインに定めてあります禁止事項以外は原則的にはお知らせできるようになっておりますので、本来は、今先ほど申し上げましたとおり、町民のいろいろな活動であったりとか、子供たちの活動であったりとか、

地域の情報であったりということで、基本的に、ある意味、職員のほうが随時発信することができるような状況になっておりますが、その辺は私も含めまして、基本的にそういったところまで詳細に見ていないというところで、広報につきましても、今議員ご指摘ありましたとおり、載せる月もあれば、載せていない月があるということで、こういった運用ポリシーに基づいたXの活用ができていないという状況でございますので、その点は十分に反省いたしまして、今後につきましては効果的な活用に努めてまいりたいというふうに考えてございます。

○3番（塩入健次君）　ちなみに、このXのアカウントの更新をされる担当者というのは、1名でやられているんでしょうか。

○議長（滝口一浩君）　企画財政課長。

○企画財政課長（金井亜紀子君）　広報係1名でございます。

○3番（塩入健次君）　産業観光課のほうは。

○議長（滝口一浩君）　産業観光課長。

○産業観光課長（米本貴志君）　産業観光課のほうでは、2名で随時確認ができ次第、掲載するように努めております。

○3番（塩入健次君）　ちなみに、掲載にあたって、担当者が独自に発信を行うということで、例えば上の人の確認を、どういうことをどういう文面で載せるかの確認というようなことはしてから発信するとか、そういう手順を踏むとか、そういうことがあるんですか。

○議長（滝口一浩君）　企画財政課長。

○企画財政課長（金井亜紀子君）　一応発信前に、発信の画面、写真、画像等は、私と管理職で確認をさせていただいて、オーケーを出してから掲載するという形でございます。

○議長（滝口一浩君）　産業観光課長。

○産業観光課長（米本貴志君）　産業観光課におきましては、特に夏の町営ウォーターパークの情報、ショーイベントにつきましては、担当者のほうで期間のカレンダーに沿って掲載のほうをしているような状況でございます。

以上でございます。

○3番（塩入健次君）　ありがとうございました。ぜひとも、今後とも効果的な運用に努めていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

続いて、防災無線に関連してなんですけれども、防災無線、補助金を使って整備されているということを伺っておりまして、その性質上、流せる情報の種類に制約があるというふうに伺っております。

この防災無線の運用ポリシーについて情報が分かりませんので、説明をお願いしたいと思います。

○議長（滝口一浩君） 総務課長。

○総務課長（吉野信次君） それでは、防災行政無線の運用ポリシーというご質問でございます。

防災行政無線は、防災行政用無線局運用細則というものを決めてありますので、その中の3条の放送事項により運用されております。地震・台風等の非常事態に関するもの、人命、その他特に緊急重要なこと、町行政の普及及び周知連絡に関することとなっております。

主に、町主体の事業ということで絞らせていただいております。

以上です。

○3番（塩入健次君） 承知いたしました。

私はちょっと、防災無線の、その次の質問の部分に入りますけれども、どういう情報が発信されているのかというのを、メール配信サービスのバックナンバーのほうで調べさせていただきました。

そうすると、確かに行政に関連することという範疇に入るのかもしれませんが、一番多いのはやっぱり町民清掃の案内。火災、あとは警報・注意報、こういったものは防災無線の趣旨に沿ったものかなというふうに思いますけれども、それ以外、選挙の案内ですとか、いすみ警察署からの、不審電話がありますので気をつけてくださいみたいなものとか、もしくは新学期が始まるので子供たちの見守りをお願いしますみたいな、防災無線としての趣旨、また行政に関連するとはいえ、ちょっとどうなのかなというようなものもありますので、例えば、もっと町のイベントの告知みたいなものを防災無線で流すということとはできないのかどうかということでお伺いします。

○議長（滝口一浩君） 総務課長。

○総務課長（吉野信次君） 町主催のイベントにつきましては、事前に広報紙やホームページ等での事前告知を行っております。イベント当日の天候不順によるイベント中止など、急遽やむを得ない理由により防災行政無線で周知することがあるにいたしましても、運用細則以外での運用は考えておらず、防災行政無線での放送は歓迎されている方ばかりではないというところです。

今までも選挙等で何回も投票率を発表してきていたところが、今はもう半分に減らしている。これは住民の方からうるさいというような話もございまして、絞ってきている部分もあります。

運用に際しましては、極力できるだけ流さないというのが一番住民にとっては静かでいいという部分もございますけれども、必要最小限で放送をしていきたいという部分もございます。

今後も、この細則を中心に考えて判断をしていこうと思っておりますが、先ほど申しました回数の表示いただいておりますけれども、全て必要ということで判断をして放送しておりますので、その辺は御了解いただきたいと思います。

以上でございます。

○3番（塩入健次君） 例えば今年の夏なんですけれども、公民館で高校野球のパブリックビューイングをやりますというような放送が流れまして、珍しいこともあるもんだなと、私はすごく思ったんですけれども、あれに関してはどういう判断の上で放送されたのかお伺いしたいと思います。

○議長（滝口一浩君） 田邊副町長。

○副町長（田邊義博君） 議員のご指摘のように、あまり例のない放送でございました。ただ、背景を申し上げさせていただきますと、パブリックビューイング、山梨学院が勝ち進んできたということが急に分かってきたわけで、住民の方が選手で入っているということが分かりまして、急遽パブリックビューイングを決定しまして、それに関しまして、パブリックビューイングは本町ではやったことがなかったので、どのような手続が必要なのかということで問い合わせましたら、普通は1か月以上前から申し込まないと無理なんですよというようなことだったんですけれども、何とか頼み込みまして1日で許可をいただきました。

そうしますと、住民の皆さんにせっかくパブリックビューイング開催するんですけれども、周知する手だてがなかったので、これはほかに方法がないということで放送させていただいたもので、例外中の例外でございまして、次回はあまりこのようなことないようにしたいと考えております。

○3番（塩入健次君） 今後はこのようなことないよというお話なんですけれども、私どんどんやったほうがいいんじゃないかというふうに思う派なので、今総務課長のほうから、あまり歓迎されない部分もあるのではということでしたけれども、適宜判断のほうをしていただいで、実際パブリックビューイングをやったという実績がありますので、今後とも必要な放送、必要な放送というのか、もっと町民のみんなが幸せになれるような、そういう情報であればどんどん流していただきたいと思いますので、柔軟な運用をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

町の情報発信については以上とさせていただきます。

続きまして、町長が就任以来、定期的に実施しております「ハラを割って語る会」というものの成果についてということでご質問させていただきます。

これまでも、こういう場で適宜前回の参加者は何人だったというような報告も受けてはいるのですけれども、改めて最初から今までの実施回数とそれぞれの参加者、もしくはグループで来られた方についてはその団体数ということで教えていただければと思います。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 「ハラを割って語る会」ですけれども、第1回目、5月8日、12組14名、キャンセルが1件、第2回は6月24日、6組9名、第3回は8月19日、2組4名、第4回は公務の都合で分散して開催いたしまして、10月6日に1組1名、10月16日、1組2名、第5回は11月12日、1組2名、キャンセル1件です。5回の合計が23組31名です。

また、非公式ではありますが、4月22日に交流スペースかぐやでミニトーク、10月18日御宿台秋祭り会場で子供たちとのハラトークを開催しております。

以上です。

○3番（塩入健次君） ありがとうございます。

次なんですけれども、開催を告知する文書には、町民と行政の協働による町づくりに生かしていきますという文言があります。実際に今後生かしていく予定、もしくは既に何らかの形で実行に移しているというようなご意見はあったのかどうかということでお伺いします。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 実際には何件かあります。

まず1つ目に、eスポーツを活用した地域振興についてという提案がございました。これについては、今社会福祉協議会で実施しております。

2つ目として、在宅の終末医療と医療体制についての提案というのがございました。提案では、リモート診療を行いたいという申出のあった東京在住の医師の方がおられまして、その方とは、語る会の後、町内の医療関係者と会っていただいて、今話合いを進めているところでございます。

会の提案についてなんですけれども、早急な回答を求めてくるという方はまだおりません。これからの御宿町についての前向きな提言というのを受けております。また、広報のお知らせでもお願いしているのですけれども、町への提案としてのお話をしたいので、単なる要望、これはおのおのの部署で対応となるということを了承していただきたいというふうに思っております。

以上です。

○3番（塩入健次君） これは、個別の意見について何らかの形で参加者に回答しているんですかというのも含めてご答弁いただいたということによろしいですか。分かりました。

この告知の文言なんですけれども、ホームページの画像と10月10日のお知らせ版を載せましたけれども、例えば「キョウドウ」の文字が、共に働く的な、共にというか、協力して働きますよというようなのと、同じという字の共同と、また生かすの文字も、生きるというものと、活動の活などと、ちょっと表記にばらつきがあるんですけれども、これはどっちが本物なんですかね。本当なんですかね。これは言葉の意味が違ってきてしまいますので、どちらが正解なのか教えていただけますか。

○議長（滝口一浩君） 田邊副町長。

○副町長（田邊義博君） こちらは校正段階でのチェック漏れが原因です。申し訳ございませんでした。今後は、このようなことのないように事務を進めてまいりたいと考えておりますが、正解はホームページでございます。

○3番（塩入健次君） 分かりました。ぜひ間違いのないようにお願いしたいと思います。

続きまして、参加された町民の方々、町長とお話しになって、どのような反応をされていたかということをお伺いしたいんですけれども、町長と、あと副町長も常に同席されているということですので、客観的に副町長から見た印象も、ぜひお二方にお伺いしたいんですが、よろしくをお願いします。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 参加者の方からは、おおむね好評をいただいております。参加者の方からは、なかなか町長さんとお会いする機会がないので、いい機会をもらえたという声はかなり多くございました。

以上です。

○議長（滝口一浩君） 田邊副町長。

○副町長（田邊義博君） ただいま町長がお話しされたとおり、なかなか町長とお話などする機会がないところで、いい機会を与えてくれたという声が多いです。また、こういうところで、まさかこういうしゃくし定規なところで話をするとは思わなかったとか、もうちょっとリラックスできるような話し方ができないかなんて、そういうことを言う方もいらっしゃいますけれども、これ1回きりではないので、また違うテーマで同じ方が何遍参られても結構ですので、また引き続き続けてまいりたいと考えております。

○3番（塩入健次君） ありがとうございます。副町長、すみません、勝手に振ってしまいまして申し訳ございませんでした。通告なしで申し訳ございません。

それでは、全体として、「ハラを割って語る会」、これの成果を町長のほうはどのように捉えているのか。また、今、今後も続けていきますというような副町長のお話がありましたけれども、今後この会をどうやっていくのかということについて伺いたいと思います。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 貴重な町民の対話の場だと考えておりますので、まだまだ継続して行ってみます。

あと、この先の予定なんですけれども、12月18日交流サロンかぐやで、またハラトーク。それから、「はら町長とハラを割って語る会」は、1月15日と2月19日に現在開催を考えております。

以上です。

○3番（塩入健次君） 先ほどの質問でも、現在計画が進行しているものがあるという答弁もございましたので、一定の成果はあったというふうに私のほうも捉えさせていただきます。

この会のそういう意義があったということであれば、ぜひとも町長おっしゃるように、今後とも町民の意見を聞く場として継続して行っていただきたいと思います。やはり若干会を追うごとに人数が少なくなっておるんですけれども、その点についてはどのようにお考えですか。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） これは、皆さんがどう捉えていることもあるんですけれども、確かに一番最初の頃はあったんですけれども、やはり単なる要望というのも多かったのも事実でございます。そこで、いろいろ時間配分とか、ただ言いつ放しで終わったり、対話をする時間がなくて一方的に言われて終わっちゃったりとか、そういうのもあって時間配分を変えたり、あと単なる要望でしたら、それぞれの部署で聞きますからというところで改善を行っているところで、そういったことでまだまだ進めようとは思っております。

○3番（塩入健次君） 分かりました。

1回目が結構いっぱい来たので、単なる要望も含めていっぱい来たので、2回目からちょっとレギュレーションを変えたので若干減ってきていますよということによろしいですか。ありがとうございます。

最後になりますけれども、前々回の定例会で田中副議長、また前回の定例会で私のほうから、町民だけではなくて、役場の職員とも腹を割って話す機会をつくったらいかがでしょうかとい

うような要望をさせていただいております。そのたびに、町長はこれからやりますというような答弁をされているんですけれども、それはその後どうなったのかということでお伺いします。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） いろいろスケジュールが詰まっていて、町民との語る会の設定にもちょっと苦勞している状況でございます。職員との対話については、事業提案とか、そういう仕組みの中でつくっていききたいなと今考えております。ちょっとスケジュールがタイトで、なかなか動けないもので。

○3番（塩入健次君） ということは、やっぱりこれからやりますということでよろしいんですか、今回も。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） ですから、そういった対話については、対話というほかに、事業提案の仕組みとか、そういったところでやっていこうと考えております。

○3番（塩入健次君） そういう別の枠で機会を設けるのではなくて、業務上のやり取りの中で対応していくと、そういうことでよろしいですか。分かりました。

前回の定例会で、人事異動などに関しても、まだちょっと職員との信頼関係が築けていない中で、大幅な人事異動やり過ぎじゃないですかというようなことも指摘させていただいたんですけれども、これまた来年4月にそういう人事異動はあるわけですが、それまでにそういった職員の人となりを把握するとか、信頼関係を築くとか、そういうことができていないと、また混乱を招く原因になるのかなというふうに思っています。それまでにぜひそういう機会を設けていただいて、来年4月の人事ではそういうことがないようにと、いろんな職員の適材適所、人事を行うためにも、そういう機会を早めに設けていただけたらなというふうに思います。

また、先ほど新しくいろんなことをやるための部署をつくりますというようなお話もされているんですけれども、そういったことも含めて、来年の人事異動については、そういうことも加味してやっていただけるのかどうか、それを答弁お願いしてよろしいですか。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） いろいろ考えながらやります。

○3番（塩入健次君） ぜひ役場内のいろんな環境も、活性化含めて必要なことだと思いますけれども、職員たちとの連携も非常に重要だと思っていますので、頑張って時間をつくって、職員との対話をしていただければと思います。

私のほうの一般質問は、これで終わりにいたします。ありがとうございました。

○議長（滝口一浩君） 以上で、3番、塩入健次君の一般質問を終了します。

ここで10分間休憩します。

（午後 2時51分）

○議長（滝口一浩君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 3時02分）

◇ 石 井 芳 清 君

○議長（滝口一浩君） 8番、石井芳清君、登壇の上、ご質問願います。

（8番 石井芳清君 登壇）

○8番（石井芳清君） 8番、石井です。通告に従いまして質問いたします。

町長の政治姿勢について4点伺います。

まず1点目であります。就任して1年の所感を伺います。今日4点でありますけれども、ほとんどが多くの議員が同様な質問をしておりますが、答弁もいただければと思います。

原町長は就任して間もなく1年を迎えますが、町民の皆さんからは何も変わらない、何をやっているのか分からないという声も少なからず聞かれます。原町長は、こうした声にどう答えるのかも含めまして、改めて答弁を求めるものです。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） この1年間、どのように物事を進めていけばよいのか、いろいろ試行錯誤をしております。議員のおっしゃる町民の皆さんの中から、何も変わらない、何をやっているのか分からないという声も少なからず聞こえるということでしたので、こうした声を聞いて対話をして進めるために「はら町長とハラを割って語る会」を立ち上げておりますので、ぜひこの会に参加してお話をしていただきたいと思っております。

また、先ほどの田中議員もありましたけれども、1年でそこまではというのもありますけれども、着実に進めていきたいというふうに考えております。

前町長の体制が16年続いたということで、役場内の組織も膠着したという印象を受けておりますので、こういった重点事業を進めるためにも、部署を設けて、御宿駅西側の開発とかビーチタウン協議会と、空き公共施設の活用などを進めてまいりたいというふうに考えております。

○8番（石井芳清君） 分かりましたと申しますか、1年間で町長の公約、また町民からの声、それでこの1年間、そういう町民の声ですね。どこに何が問題あるのかということ、私なり

に考えたわけでありますけれども、それで改めて私自身この1年間振り返りました。

それで、1部コピー持ってきてございますけれども、これは広報1月号の2ページですね。町長と議長という形で年頭の所感、一般的には年頭の所感と言われると思うんですけども、こうした町づくりを1年間進めていきますよということで、町長として、議会の長として、町民の皆さん含めまして談話を寄せているということだろうと思います。

それで、幾つか次の質問とも当然関わってくるんですが、私から説明するのもおかしいかも分かりませんが、少し読ませていただきます。

12月24日付で町長に就任いたしました。これからの町の方向性について定めていくことに責任の重大さを痛感しているところです。

町づくりには、町民の皆さんの知恵や力が重要です。そのための新しい仕組みと協調関係をつくれます。

町民の皆様の声に耳を傾け、向き合ってまいります。民間の考えを基に、町民と職員と議会と一緒にあって対話をし、明日の御宿町のデザインをつくれます。討論会を開催し、町民の皆様と議論を深め、幅広い知見を集約します。一案に肩入れず、公正に検討できるよう専門家を招くなど工夫いたします。

御宿町において、町民の皆様の満足度を高めることが行政の目標であると考えています。

御宿町を町民の皆様、職員、議会と一緒に明日の御宿町を考えてまいります。一緒にやってみましょう。大事なのは挑戦することです。

ごくかいつまんで紹介をさせていただきました。

これが町長就任して、町民の皆さん、議会、職員に対するメッセージだと思うんですね。私はこれを思い出しました。そして、その中で議会は何をできるのかということで、議長ともそうですし、議会でも事あるごとに様々なことを協議しながらひとつひとつ進めてまいりました。

前回もお話しさせていただきましたけれども、御宿町議会、私が再度議会に上がらせていただきまして、議会基本条例をやりましたですね。それに基づいて議長から指示をいただいたり、その実証方法ということで具体的な課題に対して議会として何をすべきかということで、ワークショップ等、視察等含めて、様々なことを私自身も無我夢中でやってきました。その結果が、全国表彰を頂いたということだなと思います。

町長が年頭の所感を出された町への方針、それから様々な行政の仕事のスタイル含めて、それから意思決定について、全てここにきちんと書かれているわけですね。これが町長の御宿町に対する様々な町民、職員、また議会に対する町の行政マネジメントというんですか、方向性、

方針である。そういう形で来ているというふうに理解しております。

ですから、就任後、1月でしたか焼津市に行きまして、自治基本条例について学びに行きました。

そのときは議会だったんですけれども、次に議長から町長にこういう形でこれからの町づくりについて、この方針に基づいて、町長も同行されたいかがですかということで、一緒に行かれたというのが経過であったろうと思います。

また、この夏には、町長から逆に小菅村って、こういう地方創生最先端を行っている自治体があるということで議会にもお話がありまして、議長から、じゃ、議員も含めて行かれてはどうかという提案もされて、町長、私も含めて、職員も含めて学んできた。

それで、簡単に申しますと、これまでの財政ではなくて、民間も入れた中でのそういう仕組みづくりも含めて学んだところだろうと思います。

教育民生常任委員会も御宿小学校の更新事業ですね。そういうことも大切だろうということで、今般、先日の視察報告をまとめさせていただきまして、今日お配りさせていただきました。

また、産業建設常任委員会から委員長報告がありまして、視察報告をさせていただきました。その後も、昨日深夜の大地震、そういうことがたまたま起こったわけですが、やっぱり議会としてもそういう海を持つ町として、震災、また津波等ということで、そういうことも議長、委員長含めまして提案していただいて、私も同行させていただきました。これが経過だろうと思います。

そうしたことの中で、具体的な質問をさせていただきたいと思います。

私が町長とご一緒した視察は、焼津市と小菅村であります。

焼津市は自治基本条例について学びましたが、道中の休憩で訪れた静岡市の西端で、我が町と似たようなロケーションを持つ駿河区用宗では、地元民間企業の主導で開発が行われ、行政は法律や制度運用など技術的側面で連携し、古民家をリノベーションした宿泊施設や飲食店舗、集合飲食店舗、商業店舗に加え、漁港の荷さばき場の半分をリノベーションした温浴施設と、食堂、醸造所などが連鎖的に展開され、施設利用のお客様に加えて視察する団体の姿も見られるなど、活気ある地域となっていました。ちなみに、この漁港には津波避難タワーも建設されていました。

御宿町のこれからの開発の在り方の好事例として受け止めました。民間が企業、例えば漁港とかにも話し合いをして、民間が構想をつくると。行政は法的手続、住民との関係性だけをやっているということで、多分基本的には公的資金は入っていない。数多くのいろいろな、先ほど

お話もしました分は、建物が造って、すごいすてきな環境になっていたというふうに理解をしております。

次に、執行部と議会合同で視察した小菅村は、山梨県の秩父多摩国立公園にあり、多摩川の源流部に位置し、面積は5,278ヘクタール、森林が95%を占め、その役割が東京都の水源涵養林です。令和6年10月末日の現在人口は619人、高齢化率は47%、議員定数は8名です。しかし、最新の広報を見ますと、今年の10月1日現在の人口が622人と、この間の努力で人口が増えていました。御宿町の2倍の面積に10分の1の人口で、源流をキーワードに創意工夫あふれた事業と、少ない子供でも村が教員を配置するなど、教育を大切にした村づくりが行われています。

まず驚いたのが、役場の玄関の案内です。今日役場の玄関の写真をお持ちしました。何て書かれておるかとお申しますと、「ようこそ小菅村役場へ。お気軽にお声がけください」と書かれてありました。これは筆ですね。筆字で、手書きで書かれていたものです。

これは教育長が提案されたとお聞きしましたが、これを見ただけで私は、今回の目的の9割方達成したと感じました。村長の決断と行動のスピードは、若き民間業者の社長も追いつけないほどだと語っていました。また、役場の事務室は1階の玄関に面したワンフロアで、20人ほどでしょうか。我が役場の保健福祉課、ちょうどこの脇ですけれども、入り口だと思いますが、ほどこで、毎日朝礼を行うと言っておりました。役場職員のみならず、住民にも情報を伝えているそうです。そのため、村が何を考え、何をしているのかが分かり、村民と村外の人とのあつれきもほとんどないそうです。きめ細かな情報発信と情報の共有の大切さを学びました。

小菅村では、出会いを大切に信頼し任せる村長と、確かなビジョンの下、行政と企業の伴走型の事業は、人も資源も生かしたものとなっているなど、学ぶことの多い視察となりました。

原町長は、この視察を行政運営や町づくりに、どう生かしていくのかお伺いをいたします。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 山梨県小菅村の視察なんですけれども、かねてより民間活力、これをうまく取り入れた行政の運営姿勢と考え方に興味を持っていたところでございます。

そこで、先ほどお話ししましたけれども、全国町村会の会議で舩木村長とお話しする機会があって、これが実現したものでございます。

小菅村で事業展開している株式会社さとゆめの嶋田社長のような伴走型のビジネスパートナー、これを本町でも探し出して共存関係を築きたいと考えております。

「はら町長とハラを割って語る会」や、このたび立ち上げた有識者によるビーチタウン協議

会、これはその一環として行うものでございます。引き続き、積極的に情報入手のため多方面から意見をいただきながら、住民にとって有益な政策を進めていく予定でございます。

冒頭の諸般の報告でもお話ししたんですけれども、このビーチタウン協議会、これは町が抱える課題、活性化に向けた事業の検討にあたり、皆様からのお知恵をいただきながら、課題の整理や進め方を検討するシンクタンクとしての役割を担うものでございます。この協議会がこれからの町の方向性を決める重要なものとして期待しております。

今回の有識者の方もかなりの見識を持った方がそろっていただきましたので、かなり期待しております。

また、小菅村の視察については、同行した各課長からも報告させますので聞いてください。
以上です。

○議長（滝口一浩君） 田邊副町長。

○副町長（田邊義博君） 町長から株式会社さとゆめの嶋田社長の著書をお借りして、小菅村の取組を知りました。人口が700人に満たず、コンビニやドラッグストアもない自治体ですが、嶋田社長を含め様々なビジネスパートナーと連携し、行政運営をされております。

小菅村同様、本町も小規模自治体ですので、地域活性化事業といっても、財政的にも、マンパワー的にも、なかなか自力で行うことは困難です。NIPPONIAの古民家ホテルでは、多くの村民が食材提供や施設管理に携わっておりました。西濃運輸を中心とした組織によるドローン物流の実証、JRとの連携など、参考となるお話を伺うことができました。

視察を通じて、民間事業者との協業、いわゆる伴走型の事業実施の可能性を確認いたしました。本町におきましても、12月4日に町のシンクタンクとしての御宿ビーチタウン協議会が発足いたしました。これにより、町長の公約である外部の知恵や力を集約する仕組みができましたので、これを活用しながら町の諸課題などの解決に努めてまいります。

また、視察によってというわけではございませんが、今まで町長室には接客用の応接セットがございましたが、町長の指示により会議用のテーブルに入れ替え、多数による会議ができるようにいたしました。職員などと大きな資料を見ながらの会議ができるなど、大変事務効率が上がっております。

小菅村は村長と職員の距離が近く、意思疎通がよく図られておりました。本町でも風通しのよい行政運営を行いたいと考えております。

○議長（滝口一浩君） 総務課長。

○総務課長（吉野信次君） 小菅村視察に関しての感想でございますが、村の中心部の広さは

限られており、当町よりさらにコンパクトな町づくりを行っておりました。財政状況など状況には違いはありましたが、住民の幸せのために自治体が存在していることには変わりはなく、それぞれのよさを生かしながら施策を推進していければと改めて思いました。

視察を行うことにより、よいところを見直すところが明白に感じられましたので、職員間の風通しのよい関係、職員同士が顔色や体調が分かるような関係づくりを図っていきたいと思います。

以上でございます。

○議長（滝口一浩君） 産業観光課長。

○産業観光課長（米本貴志君） 産業観光課です。山梨県の小菅村の視察では、規模や町並み、産業も異なり、本町と状況は異なることも多かったと思います。

宿泊施設でのおもてなしとしては、できるだけ地元の食材を生かす地産地消をはじめ、村民自らが関わりを持って運営に参加しているなど、村全体で携わっていると感じました。

また、町づくりをプロデュースしたコンサルティング会社の方が、計画策定だけではなく事業実施まで携わると、そこには村との信頼、必ず達成すると強い意志を感じることができました。

こうしたことから、本町におきましても、まず地産地消をはじめ、あわせて特産品の開発は重要なものであり、まずはひとつひとつしっかり取り組んで、特産品の開発から販路までを一体として進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（滝口一浩君） 企画財政課長。

○企画財政課長（金井亜紀子君） 小菅村は大変小さな自治体でありながら、多くの取組を行っている様子を視察で勉強させていただきました。

小菅村村人ポイントカード事業、タイニーハウス設置事業、源流親子留学制度など、様々な分野において他の自治体の行っていないような施策を早くから実施しており、着実な成果を上げていると感じました。

民間の持っているアイデア力と人脈などをうまく活用し、それをすぐに実行する決断力とスピード感を持った村長と、役場職員、議会、村民が一体となって町づくりを行っている点が地域の魅力アップにつながっているんだと感じました。

また、企画財政課の担当業務といたしましては、地域おこし協力隊の活用について質問をさせていただきました。職種ごとに村内の企業や団体が受入先となり、そこに所属して活動する

地域おこしの活用方法でした。最初の3年間は、おこしとして町が給料を負担し、任期満了後はその社員となり残っているとの話がありました。その結果、おこしの5割近くがそのまま村に残っているというお話でした。

今までの御宿町における地域おこしの活用については課題が多く、うまく機能していない部分もありますので、小菅村のこういった活用方法を参考に、今後取り組んでまいりたいと思います。

以上です。

○議長（滝口一浩君） 建設環境課長。

○建設環境課長（伊藤広幸君） 小菅村を視察しまして私が感じましたのは、多摩川の源流であるということを主軸に村づくりをいたしまして、小さな村でも、自己財源が少なくても、村民や企業と協働することで実現するなど、強い実行力に感心をいたしました。

私は、下水道の整備状況はどうか、ごみ処理はどうしているのかなど、村を見ながら小菅村の職員に尋ねさせていただきました。小菅村は、源流のきれいな水を守るために下水道整備が行われたということで、普及率は100%に及んでいるということで驚かされたところです。また、ごみ処理についても、広く皆さんの課題だという認識がありましたので、広域処理ですかということで尋ねさせていただきました。

時間の都合上、簡単な会話しかできませんでしたが、御宿町に帰ってきました、後追いでホームページ等確認をさせていただいたところ、生ごみについては林業廃棄物と一緒に堆肥化するなどの処理を行っていたり、現在広域ごみ処理施設の老朽化のために、さらに今2市2村でやっているそうなんですけれども、さらに大きいくくり、12市町村で広域化をするための準備をして、令和4年に広域環境事務組合を立ち上げまして、14年度稼働に向けて準備中だということで、小さな団体でも様々な協議を行いながら実行に及んでいるということで感心させられたところです。また勉強になったところです。

以上です。

○8番（石井芳清君） 参加した町長のみならず、参加された職員の皆さんからも感想、これからの職員としての取組について答弁をいただきました。

百聞は一見にしかずということで、町長は就任当初から町づくりの構想、先ほど一部読ませていただきましたが、提案をされていたわけであります。それに基づく職員として、町長の公約、それをどう実現するのかということで、町長も先ほど自らおっしゃられていましたけれども、これまでの町長はどちらかというとトップダウン型。ですから、全て町長が考えて、職員

また議会のほうも指示というか、そういう形でひとつひとつ行政が進んできたというか、そういうことかなというふうに思っておりますけれども、これからは町民とともに町づくりをする
と。

それから、町長からも大方針がきちんと示されているわけだと思うんですね。それはやっぱり職員がどう受け止めて、持ち場持ち場で具体的にどう進めていくのかと。これはやっぱり100回、200回しゃべったところで、じゃ、それが本当に、例えば私が今いろんな話を、これもするわけですが、じゃどう理解し、どう実現するのかということなどもなかなか、例えば議員と職員との意思疎通というんですか、政策実行についても、この間も難しいところも相当あったというのは事実だと思うんですが、

ですから、小菅村も過疎化、それから高齢化では全国トップだと。僅か600人の村だと。この村がやってできるというか、我々はこの村を絶対なくさないために全力で頑張りたいんだと。こういうことは私たちが証明できれば、どの自治体だってできるじゃないかというのを言外に言っていたように、私思っているんです。これだけの職員、それから人口、それから恵まれた環境ですね、白い砂浜。一方で一山越えれば里山ですね。豊かな里山が広がっている。そして、すばらしい方々がたくさん住んでおられる。この間のたしかある雑誌の調査によれば、よそから転入率ですか、御宿町が非常に高いというようなデータなんかも公表されていたというふうに思います。

それで、私古民家にも案内していただきました。先ほども少しお話ししたんですが、こういうことかなというふうに思ったんですね。やはり小菅村村長は、例えば原町長みたいにまず就任して、こういう村づくりを進めたいんだというお話をして、そのためにはどうしようかという中で計画をつくる。だから多分計画するときも、こういう会社を呼んで、こんな話をしたいということもその都度職員にも伝える。全員なんですね、結果として。そのことを村民にも伝える。多分結果として、村民の皆さん、これがあのとき村長が語っていたことだな。

その古民家のラウンジというか、入って受付のところには山野草が生けてありました。それはご近所の方の山野草だそうでございます。

それから、野菜もそうです。地域を案内するのも地域の方。それから支配人のお話では、お客様に対してまずお願いしたいのは、村民の方に会ったら必ずご挨拶をお願いできませんかというお話もされておりました。ですから、計画がひとつひとつ、まず最初の段階から職員全体、そして住民全体にきちんと共有されている。結果的にはひとつひとつのものが、これは自分に参画できるのかということだと思うんですね。

今日の一般質問をずっと聞いておまして、今も語る会のお話をされましたけれども、なぜ参加者が少なくなったのか。私は一つあると思うんです。今日一般質問で聞いてびっくりしました。既にeスポーツですか、それから在宅医療等、具体的に指示をして、それに向けての活動が始まったということですよね。だから全てでなくてもいいんですけれども、例えばこういうことで、例えば一般質問だったら、私も幾つか4点あるわけなんですけれども、こういう点で語る会があった。どの程度出せるかというのは判断があるんですけれども、それでこういう提案をいただいた、個人名を出すかどうかは別として。こういう提案をいただいて、これについては既に指示をしたということ、町民のほうにきちんと広報される。それは多分町長のページがありますよね。あの中にそういうことをきちんと書かれるということが、私は適切なのかと、大変失礼なことかも知れませんが、活用方法があるというのではないかなということじゃないかと思います。

同様に、今日も諸般の報告ということで大変たくさんの、ほとんど町外に出られることも含めて、あれ見て大変お忙しく業務をこなされていますけれども、それは出るんですけれども、今日簡単に説明されましたよね、幾つかの。そのことをやっぱり、例えば小菅村に行きましたと。一言でいいんですけれども、こういう内容でしたと、今日付け加えられたようなことなどが、やっぱり町長のブログというんですか、そんな形で報告、報告というか広報されたらいいんじゃないかなと。

例えば、こういうものをつくって、作りましたよといって完成すれば一番いいと思いますけれども、やはり小菅村を見て、こういうものをつくっていいのかというところから始めて、丁寧に住民の皆さんにひとつひとつ、その時点ごとに広報していくということは、僕はすごく参考になったし、それで職員は職員としてあるんでしょうけれども、長としてそういう感想とか、そういうことについて、その場でやはりきちんと住民の……、それは町長が自ら最初に公約した住民の皆さんと共にという。町民の皆様の知恵や力が重要ですよというお話をされているわけですから、そのためには、聞くだけではなくて、聞いたことを返していく。そして、職員はやっぱり気づき、考え、行動するというんですかね。

これまでは、待っていれば全部町長が指示を出したと思うんですけれども、やはりこれからそういうスタイルということで、やっぱり仕事のスタイルって、町長も先ほど答弁の中でおっしゃっていましたが、なかなか、切り替えるというのは、僕は考えると180度違う。行政の運営スタイルだというふうにも思いますので、そういうものに向かって、これからやっぱりひとつひとつ仕事を、例えば会議のやり方、会議が例えば、今日の会議はゴールですね。

何を結果を出すのかということも踏まえまして、そういうことももう一回職員が精査をして、ひとつひとつの会議を成功させていくということが、非常にこれから大事になってくるのかなというふうに思いますけれども、それについて、長くなりましたが、どうお考えなのかお聞かせ願えればと思います。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） ちょっとなかなか答えに詰まっちゃうんですけども、いろんなことを、いろいろなところで通じて広報していこうとは考えております。

ちょっと個人的というか、実は最近私もインスタグラム始めまして、今日私がここに行ってこんなことをやってきました。こんな感想を持ちました。そういうのを今少しずつ載せているんですけども、まだフォロワーが2桁後半ということで、もっともっと広がってほしいなとは思っておりますが、そういったところでも、いろんなことをやりましたというのは、今やっているところでございますが、それを今ありましたように、町のホームページの中の町長室のところでも、そこまで載せちゃっていいのかなというところもあったんですけども、まだ実現していないようなものとか、はっきり語る会でも聞いているけれども、まだどうしようかという部分をどこまで公表するかというのも、今考えております。

ただ、どこかの段階で、1年間やってこんなことがありましたぐらいの報告はしようとは考えております。

○8番（石井芳清君） 分かりました。

もうインスタもやられているというお話も伺いましたけれども、存じ上げておりませんでした。もう既に努力をされているということでございますので、役場のこれからの広報の在り方ですね。今日もホームページだとか、ツイッターだとかということで、具体的にここで議論もありましたけれども、その中でもっと分かりやすい情報、タイムリーな情報をどう町民の皆さん、また議会も含めまして共有するかというのは、今極めて大事、しかも時間という、非常にスピードが速いんだと思うんですね。どんどん変わっていくという中で出し遅れということがやっぱり一番、結局、いろんな問題が起きてしまうわけですね。

ですから、早い段階で情報を出していただいて、するとみんな、そうかこんなことやるのか。じゃそれには、例えば議会だったら、こういうことをみんなで取り組もうねとかという形になってくると思います。町民の皆さんもそうだと思いますので、より一層の努力を求めたいと思います。

具体的な質問に移ります。

それでは、公約と新年度予算についてということで、大分重なる内容になりますが、この新年度の抱負に語られていた8項目。1つは子育て支援、補助の見直し、給食の無償化、2つ目が御宿小の更新、3、駅のバリアフリー化、4、獣害対策、5、集客力の強化と定住化。そのための外部へのPR活動の強化、6、駅裏の部田地区、7、海岸フロント部のインフラ整備、公民館周辺の公園化、資料館のリノベーション、8、老化した施設の補修、改修、除却等について答弁を求めたいと思います。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 公約として掲げた8項目については、現在進めているところでございます。

今質問ありましたように、各項目についてご説明したいと思っておりますが、関連づけて、一体で検討している項目もございますので、ちょっと一部重複したりいたしますので、ご了承ください。

1番目の子育て支援の加速についてなんですけれども、補助の見直し、給食の無償化、これについては、就任当初、令和6年度において入学準備金、修学旅行補助、これが廃止されていたものを、令和7年度において復活させ、令和6年度分も遡って支給といたしました。

給食の無償化については、令和7年に半額無償化しております。国が小学校の給食の無償化を検討しておりますので、動向を注目しておりますが、それにかかわらず町としては小学校の無償化は新年度から実施したいと考えております。

御宿小学校につきましては、更新の方法について検討を進めております。教育課長が岩瀬議員の質問に答えておりますけれども、当初からお話ししているように、耐震化が完了しておりますので、躯体の健全性について調査をいたしました。安全性が確保できないのであれば、更新、建て替えにかじを切るという方針でございました。今回、健全性が確保できるというものなので協議を進めます。

また、現在、いずれも老朽化が進んでいます公民館、歴史民俗資料館、児童館、社会福祉センターと体育館を含む御宿小学校、これについては合築を今検討しております。一定程度の高さのあるものとして造れば、津波にも対応する近隣住民の避難先としても利用できるものにしたというふうに、今考えております。

これはまだ構想の段階ですが、できればこの方向で実現できるよう、住民の皆さんへの説明も含め事務を進めてまいりたいと考えております。

駅のバリアフリーと害獣対策と集客力強化、駅裏については、今関連づけて話を進めており

ますので、一つは、10月21日に熊谷千葉県知事が夷隅郡市を視察に訪れております。その際に意見交換をして、いずれも町への協力をお願いいたしました。

有害鳥獣対策については、捕獲に伴う補助金単価の増額、町単独施設の設置補助の拡充、処理場、加工場の設置、食肉だけでなく二次利用としての皮などを利用した特産品開発について取り上げました。

道路整備といたしましては、実谷バイパスの早期完成、駅裏遊休地の利活用、移住定住施策の促進、またこれに付随した駅のバリアフリー化についても要望しております。

駅裏につきましては、現在サッカー練習場の誘致、これを検討しております。各地で同様の施設が稼働しており、その利用者も増加傾向であると聞いておりますので、本町の場合は、それらの施設よりも東京からのアクセスがよいので、十分に検討に値するものと考えております。ただ、ご承知のように予定地が民間の所有地でございますので、今後議員の皆様はじめ、地権者やご関係の皆様にご説明の機会を求める予定でございます。

7番目の海岸フロント部のインフラ整備につきましては、資料館を含む公民館近辺、周辺の整備につきましては、先ほどの公共施設の集約化でお話ししたとおりなんですけれども、これらにつきましても、ビーチタウン協議会によって有識者の方のご意見をお伺いし、具現化の参考にしたいと考えております。

8番目として、今までお話ししました以外の施設としての港湾がありますけれども、こちらにつきましては、漁業者の使用や周辺環境に支障がないよう、漁業組合と調整しながら計画的に進める予定でございます。また、老朽化施設としては、火葬場の除却をいたします。

また、新年度予算につきましては、現在各課の要求前ですので、詳細はこれからまとめてまいる予定でございます。

以上です。

○8番（石井芳清君） 給食の無償化であります。令和7年11月13日、全国市長会より学校給食の無償化に関する緊急意見が国に提出されております。読ませていただきます。

自民党・公明党・日本維新の会において、現在、「三党合意」による「いわゆる給食無償化」の実現に向けて、三党の実務者による具体的な制度設計に向けた本格的な協議が始められている。

報道によれば、対象を公立小学校に絞り、全国の給食費の平均額を支給する案などの論点も含めた検討が行われ、今後、「国と地方の負担割合も焦点となる」とされている。

本会は、学校給食が多種多様な形で展開している実情がある中で、国等に対し、真に学校給

食の無償化を目指し、全国どこの自治体においても格差なく取り組める措置について求めてきたところであるが、こうした観点から議論が行われているのか大変危惧している。

また、全国の公立小学校の学校給食費の合算額は約3,000億円とも言われており、現在の物価高騰の影響を踏まえると、無償化に必要な財源はそれ以上の額になるものと見込まれるが、十分な額が確保できるか疑問がある。

仮に、都市自治体が一定部分を負担するような仕組みになるとすれば、無償化を実施している自治体は負担軽減となる一方で、所要額の捻出すらできない自治体が生じることが想定され、大きな混乱が生じることは必至である。

学校給食の無償化は、義務教育に係る負担軽減の観点で行われるべきものであり、地方負担が生じるような財政支援ではなく、国の責任において、必要な額を全額国費で確実に確保する仕組みとされるよう、強く求める。

ということが全国市長会の緊急意見であります。

これはいわゆる、憲法に義務教育はこれを無償とするということの観点の中での提言であるというふうに理解しておりますが、町長はこれに対して、この提言に対する所感を求めたいと思います。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 提言は聞いておりますが、実際どうするかは、今先ほどお話しした分で、小学校については無償化を国とは無関係に進めていこうという考えでおります。

ほかにも……。

○8番（石井芳清君） 基本的な給食費というのをどう扱うのか。私は、義務教育に含めるべきだというふうに考えるわけであります。全国市長会も同様な提案をしているということでございます。

実際決まったことに対しての町長の判断は分かりました。まだ決まっていない中で、少なくとも町長はこの給食費というのをどう考えるかということが私の質問であります。

○町長（原 宏君） なかなか難しいところなんですけれども、単にそれは……。

○8番（石井芳清君） この考えを理解するかしないかということ。これで同様なご意見ということを表明されるかどうかという確認だけです。

○町長（原 宏君） それについて理解はしております。

○8番（石井芳清君） 分かりました。同様な解釈であるということであるというふうに理解をいたしました。

これらを進めていく、また様々な方を、8項目全てではないんでしょうけれども、町づくりを進める、そのシンクタンクとして、今町長はビーチタウン協議会をぜひたたき台の場所にしたいというお話をされました。このビーチタウン協議会の設置要綱をいただきましたが、この御宿ビーチタウンという、具体的に何をすると申しましょうか、この文字だけを見ると、御宿の海岸線だけではないかというふうにはばっと思ってしまうんですけども、そこについて、今町長は、そうすると、どこでこれが読み切れるのかも含めて、少し分かりづらいところがあるんですけども、これは具体的に、これについて多分誤解される方が当然いらっしゃると思うんですね。これについて、どういうものなのかという、この中身についてもう少し具体的に説明いただけないでしょうか。

○議長（滝口一浩君） 原町長。

○町長（原 宏君） 今言われるように、ビーチタウンというと、御宿だから海か、海のことだけかなとイメージは持たれると思うんですけども、御宿自体が海もあり、山もあり、コンパクトな町だということで、御宿全体を町という捉え方でビーチタウンという名称にしております。

○8番（石井芳清君） 分かりました。海岸線を持つ自治体だということを、今おっしゃっているということでよろしいですか。分かりました。

その部分が、これだとちょっと読み切れないんですね。ですから、今後運営していく上においては、この辺のところをもうちょっとどうするのかというのが一つ課題かなという……。

○議長（滝口一浩君） 田邊副町長。

○副町長（田邊義博君） その点についてはおっしゃるとおりで、我々もその辺承知しておるところです。また、12月4日の協議会の会議の中でも北村委員さんにその点ご指摘していただいておりますので、今後、何らかははっきり分かるような形に変更ができればと考えております。

○8番（石井芳清君） 分かりました。

この次、多分2回目がそんなに遠くない時期に招集されるのかというふうに思いますけれども、それに出す議案というか案件について、どう出していくのか。出し方、会議の持ち方、先ほど言いましたけれども、そういうところについても精査されると。委員も含めていろんな意見もあろうかと思しますので、まず2回目に向けて、具体的に、この間先生方もいただいた提言も含めまして、どういう内容で、その会議をどうしていくのかと。それから、これについては全面公開だということで、傍聴者の方もたくさんいらっしゃるわけでありまして、なおさらそういう面では、実りのある会議ということが大変重要であると思っております。

確かに、終わりもきちんと明確にされておりますので、それに対して、どういうスパンで会議をやっていくのか。何を議論していくのか、何を最終的に求めていくのかも含めて、大きなアウトラインと申しましょうか、そういうものもきちんと、次の会議までには明確にさせていただいて、実りのある会議、有効な会議にしていくことが、私は大変重要であるというふうに考えております。

そういう面では、過去の会議スタイルですね。はっきり申し上げて、例えば議会にいろんな案件が出ていても、きちんとした説明ができないという中で結論が出ないんですね。持ち越し持ち越し持ち越しとなってきたのが過去の会議だと思います。ですから、そういう面では、この会議で何を結論にするのか。そのためには、どういう資料が必要なのか。どういう説明をすれば、それについてはどういう説明が必要といひましょうか、決定していただくための説明の内容ですよ。それから説明のスタイルだとか、それから会議の運営方法なのか、私はやっぱり様々な経験をしてみまして、課題があるというふうに認識しております。

そういうことも含めまして、町長の目指す今度の会議のシステム、行政運営を含めて、前段者もありましたけれども、より効率的という中で議論をして、本当に働きやすい、そして、ああよかったかと、町民の皆さんに希望が湧くと、そういう町づくりですね。この1年間で様々な葛藤があったと思いますけれども、いよいよそういう面では原町長、全部提案をする新年度予算を今構築中だと。財政問題もあるようでありますけれども、出発するわけであります。

そして、その予算を執行する体制というのも、本当に町長、この1年間経験されて、多分腹も固まってというと大変失礼かも知れませんが、方針もつくられたのではないかと思いますので、ちょうどそういう時期であります。

これから、本当に物価高、それから子供たちの学校教育。それについては、今日の委員会の視察報告で述べてありますけれども、3年間……、ちょっとまだ時間がありますから、その内容を一つだけ報告をさせていただきます。

特に私、今日子供たちというか、学校の成果が報告されたんですけれども、その中で中学校の校長先生からこういうお話をいただきました。まだちょっと時間がありますので、それを紹介させていただきたいと思います。

生徒に都会と御宿町のアンケートをしたところ、9割以上の生徒が御宿町の自然の豊かさを挙げていたこと、同様に御宿に越してきた生徒が、御宿町は魅力的な町だと答えたことが紹介された。また、70周年記念の式典での発表や中学生議会など校外から評価をいただくことは、生徒に大きな励みとなることが紹介された。

一方で、小学校ですけれども、例えば3年間、6年しかないわけですね。3年間だとすれば、小学校の生活、学校生活半分になっちゃうんですね。今から見ても、5年たっても、本当に子供たちが安心できる、小学生ですね、安心できる環境が整うかなと、私は見通せません。6年たったとすれば、その子供は6年間あの状況で、報告書にもありますけれども、その状況で学校生活を送るというのが人生の経験になるということだと思っうんですね。

だけど子供たちは、御宿町こんないいところだというふうに思っただく。僕はその声を大切にしたいというふうに考えています。ぜひ、そうした声を正面から受け止めていただいて、ひとつひとつ会議を成功させていただくと。そして、御宿町の町長、1年前に町民にお約束をした幸福の町づくりに向けて満足度を高めることが行政の目標であるというふうに公約されたわけありますので、この実現のために奮闘していただくことを申し上げさせていただきます、一般質問を終えたいと思います。ありがとうございました。

○議長（滝口一浩君） 以上で、8番、石井芳清君の一般質問を終了します。

◎散会の宣告

○議長（滝口一浩君） 以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

明日10日は午前9時半から会議を開きますので、ご参集願います。

本日はこれにて散会いたします。

長時間にわたりご苦労さまでございました。

（午後 3時55分）